

日本映画界における「甲斐荘楠音」の功績

Achievements of Tadaoto Kainosho in the Japanese film Industry

東映株式会社

立命館大学映像学部

山口記弘 *YAMAGUCHI, Norihiro*

要旨

本稿は大正時代京都画壇で活躍した日本画家甲斐荘楠音が、戦後日本に巻き起こった太秦時代劇映画ブームに果たした功績と役割を考察するものである。

甲斐荘は太秦の松竹、東映、大映撮影所を中心に、主に衣裳考証家として多くの時代劇作品に携わった。甲斐荘の担当作品を調査するため、松竹大谷図書館及び東映撮影所にある、1945年から65年までの京都で撮影された作品の映倫用審査台本のタイトルクレジットから甲斐荘作品をピックアップした。その結果、229本を超える作品を担当し、そのほとんどが松竹、東映時代劇を代表する大監督大作、大スター人気作品であることがわかった。特にモノクロからカラーに変わる時期の時代劇において、色彩豊かでデザイン性に富む衣裳は観客の目を引く重要な要素であり、彼が衣裳考証家という肩書の日本映画における映画衣裳デザイナーであり、衣裳プロデューサーの第一人者であったことが解明できた。

Abstract

This paper considers the achievements and roles played by the Japanese-style painter Tadaoto Kainosho, who was active in the Kyoto art gallery during the Taisho era, in the "Uzumasa period drama movie boom" that took place in Japan after the war.

Kainosho was mainly involved in many period drama works as a costume scholar, centering on Shochiku, Toei, and Daiei studios in Uzumasa. In order to investigate the works in charge of Kainosho, we picked up Kainosho's works from the title credits of the EIRIN (Film Classification and Rating Organization) screening script of the works taken in Kyoto from 1945 to 1965 at the Shochiku Otani Library and Toei Photo Studio. As a result, it was found that he was in charge of more than 229 works, most of which were Shochiku and Toei, a major director's masterpiece representing the period drama, and a major star popular work. Especially in historical drama during the period from monochrome to color, colorful and well-designed costumes are an important element that catches the eyes of the audience, and he is a leading movie costume designer in Japan with the title of costume examiner. I was able to ascertain that it was.

キーワード

時代劇／太秦／撮影所／衣裳考証

Keywords

Jidaigeki/Uzumasa/Film Studio/Costume Proof

はじめに

2019年10月パリの日本文化会館にて「旗本退屈男 幻の衣裳展」が開催された。このイベントは、市川右太衛門主演映画「旗本退屈男」シリーズで使用された数々の豪華な着物が東映京都撮影所の衣裳倉庫に、担当者以外の目に触れることなく長く眠っているとの話からいかに貴重なものか確認することになり、倉庫の中に眠るその衣裳が美術の専門家も交えた中でお披露目されたことから始まった。そして衣裳を見た関係者は一様にみなその豪華さとデザインの斬新さ華麗さに驚いた。

当初67領の着物がまとめて保管されていたが、その後のスチール写真と衣裳柄の比較調査作業を経て東映の倉庫から計114領を見つけ出すことができた。そして、様々な方々の支援と協力を得て「退屈男罷り通るプロジェクト」として2019年秋に羽田空港、銀座日動画廊、銀座柳画廊、そしてパリ日本文化会館と計4箇所での衣裳展示を実施することに至ったのである(写真1・2・3・4)★1。

旗本退屈男は、東映の重役かつ看板スターである市川右太衛門が大切にしてきた戦前からの当たり役であり、戦後東映にて初登場以来大ヒットを重ね盆正月の目玉作品としてシリーズ化されてその数は20作を数える。

京都の技術の粋を凝らしたその衣裳は、衣裳道楽である右太衛門の眼鏡にかなうとともに全国女人筋の注目を集めたという。大枚をかけた豪華衣裳の数々は映画宣伝の目玉として謳われ、右太衛門第300作出演記念映画公開に際しては日本橋白木屋で衣裳展も実施された。晩年の作品では一作品内で10領以上の着物が新たに作られ、東映退屈男全20作品のうち映像で確認できる16作品と残り4作品の映画スチールを調べたところ少なくとも151領以上の衣裳が作られていることが確認できた。せっかく作った衣裳で演じた場面がカットされ使われていないこともあったという。また一度袖を通した着物は再び使わないことや、洞窟に入る前と出てくるときの衣裳が違うなどの伝説を生んだ。

それらの衣裳を製作した人物が大正の京都画壇で異彩を放った日本画家甲斐庄楠音であった。彼が描く美人画はこれまでの形式的な日本画とは違い生身の人間の情念を有した肉体を生々しく描いており、人々に強い印象を与え大きな反響を呼ぶものであった。その絵は反対派からは「穢い絵」とも評されたこともありやがて画壇から遠ざかっていった。しかしながら彼の印象的な絵は近年再注目を浴び、2021年東京国立近代美術館、大阪歴史博物館で開催された「あやしい絵」展でも展示された★2。

日本画家としての彼はこれまで書籍や雑誌で特集も生まれ、NHK教育『新日曜美術館』、テレビ東京『美の巨人』でも取り上げられている★3。しかし、映画界での彼の仕事については初期の溝口健二との仕事や溝口と甲斐庄の芸術性、対女性観などについて書籍や展示会図録の中で触れられているが、溝口と別れたその後のおよそ10年にわたる映画界での活躍の全貌はこれまで語られていない。本論では甲斐庄楠音が太秦時代劇映画においていかなる作品に携わったかを明らかとしたうえで、甲斐庄の太秦映画界での活動を年代を追って考察し、また映画会社、監督、主演俳優との関係性、担当作品の興行実績などの点において分析し考察を加えることで甲斐庄楠音が日本映画界で果たした役割を解明する。

★1——2019年度「退屈男罷り通るプロジェクト」として、東映太秦映画村と国際日本文化研究センターが企画し、まず初めに、東京国際空港ターミナル主催で羽田空港国際線ターミナル4Fにおいて、国立歴史民俗博物館の協力で9月11日から27日まで「旗本退屈男」衣裳を3領展示した。続いて、東京アート&ライブシティ構想実行委員会、文化庁、日本芸術文化振興会主催の「銀座・東京アート&ライブシティ」イベントとして、10月4日から8日まで「映画『旗本退屈男』と幻の衣裳展」を開催、銀座日動画廊にて衣裳7領、銀座柳画廊にて衣裳3領展示した。最後に国際日本文化研究センター、国立歴史民俗博物館、東映、東映太秦映画村主催にて、パリ日本文化会館にて10月22日から26日まで「『旗本退屈男』幻の衣裳展」として1階展示ホールにて、衣裳を4領展示した。以後はコロナ禍で活動を中断している。

国際日本文化研究センター
(https://taishu-bunka2.rspace.nichibun.ac.jp/activity_report/subcate_05/2819/)
(アクセス日2021年6月15日)。

★2——「あやしい絵」展公式ホームページ
(<https://ayashiie2021.jp/works/work09>)
(アクセス日2021年6月15日)。

★3——NHK教育「穢い絵だが生きている 大正画壇の鬼才・甲斐庄楠音」『新日曜美術館 甲斐庄楠音』2006年6月25日放送。
テレビ東京「甲斐庄楠音 横櫛」『美の巨人たち』2008年6月28日放送。



写真1・2 『旗本退屈男』東映(1958)撮影：岡屋佳郎



写真3・4 『旗本退屈男 謎の大文字』東映(1959)撮影：岡屋佳郎

1. 映画人甲斐庄楠音の資料及び先行研究と今回の調査研究方法

1-1. 日本画家甲斐庄楠音略歴

大正期の京都画壇にて妖艶な美人画で注目を浴びた甲斐庄楠音（1894～1978）は、楠木正成の血を継ぐ元旗本の三男として御所に入出入りする裕福な家庭に生まれた。彼は幼少期から歌舞伎、文楽に親しみ長じて京都市立美術工芸専門学校図案科、京都市立絵画専門学校、川北霞峰画塾において日本画を基礎から徹底的に学び時代考証を深く研究する★4。同性愛者でもあり女性的性質も兼ね備えた彼は着物について大変興味を持ち、生涯にわたり数多く着物の図柄を集めて日本画や

★4——甲斐庄の絵専の後輩、東映の美術デザイナー井川徳道はその時代の絵専ではお手本の巻物や資料に事欠かず、日本画では特に考証を細かく学んでいたと語る(井川1997、p.257)。

★5——甲斐荘《横櫛》と岡本《口紅》がこれまでにない美人画として評判を呼び樽牛賞の有力候補に挙げられたが、結局、金田和郎の《水蜜桃》が受賞した(島田1997, p.146)。

★6——日本経済新聞社主催「甲斐庄楠音 大正日本画の異才ーいきづく情念展」1997年2月4日から3月9日まで京都国立近代美術館にて、同年3月15日から4月15日まで笠岡市立竹喬美術館にて開催された。

★7——解説文は「甲斐庄楠音 大正日本画の異才ーいきづく情念展」の図録解説文を加筆修正したものである(島田2009)。

★8——依田(1970)p.61。

★9——依田(1970)p.178, p.182。

★10——新藤(1975)pp.237-240。

映画考証に活かした。

1918年(大正7年)村上華岳の誘いを受け第1回国画創作協会展に《横櫛》を出品した際に、その妖艶な美人画は注目を集め村上から高い評価を得て入選に推されたが、土田麦僊が推す岡本神草の《口紅》と競合し村上と土田の論争の末竹内栖鳳の仲裁によって両者とも入選することができなかった★5。1922年(大正11年)には《青衣の女》で帝展に入選し、1926年(大正15年)創作国画会第5回展に出品した《女と風船》が土田麦僊より「穢い絵」と言われ出品を拒絶された。その後も国画創作協会ですら活動が続けたが1928年(昭和3年)に同会は解散となり、「新樹社」を結成するも1931年(昭和6年)自然消滅するに至った。以後は姓の甲斐荘を甲斐庄に改め「蒼穹社展」に出品を続け、1941年(昭和16年)に東京銀座・菊屋ギャラリーで個展を開いた。映画界で活躍する中、1960年(昭和35年)には楠音も参加する文化人の集まり「山賊会」主催の「さんぞく会展」に出品し、1965年(昭和40年)に映画界を離れた後も1976年(昭和51年)に日本橋三越美術画廊「甲斐庄楠音回顧展」をもって「山賊会」が解散するまで出品を続けた。

そして1978年(昭和53年)6月16日京都北野白梅町の友人男性宅で逝去した。死後の1984年(昭和59年)に『芸術新潮』8月号で栗田勇が「画家甲斐庄楠音 穢い絵ではいかんのか」という題で甲斐荘を取り上げ、栗田は1987年(昭和62年)新潮社より『女人賛歌ー甲斐庄楠音の生涯』を出版した。1997年(平成9年)には京都国立近代美術館・笠岡市立竹喬美術館にて「大正日本画の異才ーいきづく情念 甲斐庄楠音展」が開催され多くの人々にインパクトを与え★6、1999年(平成11年)日本ホラー大賞を受賞した岩井志麻子の小説『ぼっけいきょうてい』の表紙を飾った。2006年(平成18年)にはNHK教育、2008年(平成20年)にはテレビ東京で特集が組まれ、平成2009年(平成21年)に求龍堂より『甲斐庄楠音画集ーロマンチックエロチスト』が発表された(参考資料1)★7。

甲斐庄の描く美人画は従来の美人画と異なり女性のリアルな部分を強調した暗い色調のグロテスクなもので、見る人々に強烈な印象を与え大正の京都画壇で異彩を放っていた。浮世絵にも精通した彼の絵は同世代岸田劉生の造語「デロリ」を彷彿とさせるものであり、彼は大正デカダンスの表現者であった。大正が終わるとともに時代は徐々に不景気モードに入りそして京都画壇での彼の居場所もなくなっていった。そして時代は変わり、令和の今、美術を楽しむ層も拡大し彼独特の美人画は多くの美術ファンの注目を集め《横櫛》など単品ではあるが、大正日本画展や美人画展などで見るようになるようになってきた。

1-2. 映画人甲斐庄楠音についての先行記述及び研究

初めて映画人甲斐庄楠音について書かれた記述は、脚本家依田義賢によって溝口健二について書かれた依田(1970)であり、甲斐荘が溝口作品に明治物あたりから入ってきたことや★8、甲斐荘が東京で溝口作品『雪夫人絵図』に携わり溝口と同宿していた時の会話が記載されている★9。

次の記述は新藤(1975)で、これは映画監督新藤兼人が映画『ある映画監督の生涯ー溝口健二の記録ー』として溝口と関係した様々な人々に新藤自身がインタビューし映像化した作品を出版化したもので、1974年9月の甲斐荘とのインタビューが掲載されており、その中で甲斐荘は映画界で40年いると語っている★10。それが正しいとすると甲斐荘は1930年代半ばから映画界に関係していることになる。また、インタビューで新藤が「甲斐荘さんのは品がいいから。」と言うと、甲斐荘は「ま、溝さんは、甲斐荘君が手伝ってくれると品が良くなる、て、いう

てくれはったちゅうから。」と応え、溝口と新藤といった芸術性にこだわった作品作りをする巨匠が甲斐荘の仕事に品を見出したことも書かれている。

旗本退屈男衣裳と甲斐荘については、市川（1984）★11、（1986）★12、（1992）★13、（1994）★14などで右太衛門自ら戦前から旗本退屈男の衣裳を甲斐荘にお願いしていたと語っている。

そして、依田、新藤、市川の証言を踏まえ、映画人甲斐庄楠音についてまとめた記述が栗田（1984）、（1987）である。ここでは、甲斐荘と溝口の仕事風景や関係について、新藤兼人の甲斐荘とのインタビューを記載しており★15、市川右太衛門の旗本退屈男衣裳にも触れている★16。

後は松竹映画プロデューサーだった斎藤次男が書いた斎藤（2015）で、松竹京都撮影所での「衣装合わせ」において、「甲斐庄楠音という、時代考証の専門家がいて、この人のオーケーが出ないとだめだ。股旅物の三度笠、手っ甲、脚絆、草履の果てまで厳しいチェックが入る。」との記述があった★17。

映画人甲斐荘についての研究としては池田（1997a）があり、これは1997年に京都国立近代美術館「甲斐庄楠音展」が開催された際に発行された図録に池田が同美術館研究員として書いた解説である。これは甲斐荘と付き合いのあった美術デザイナー西岡善信、井川徳道に、池田が美学者上倉庸敬、映画研究者吉田馨とともにインタビューを行い執筆したもので、文末には甲斐荘が担当した映画作品として28作品がリストアップされている★18。このリストは当時の東京国立近代美術館フィルムセンター所蔵品目録に基づいて作成されたものであった。リストには1953年東映『旗本退屈男』が入っているが、解説文では退屈男衣裳には触れられていない。この中で、参考文献として挙げられているのが依田（1970）と新藤（1975）である。

映画人甲斐荘についての図録解説の基になったインタビューは、上倉と吉田によって井川（1997）★19、西岡（1997）★20としてまとめられ、そこに池田も池田（1997b）★21を寄稿している。

その後、映画評論家の山口猛は溝口が衣裳考証において甲斐荘から別れて新たに上野芳生と仕事をするようになった理由を推察している★22。

最近では小川佐和子が小川（2020）において溝口と甲斐荘についての関係について栗田の書籍からの引用と甲斐荘の絵画と映画での俳優のポーズの類似性について述べている。小川は文末に旗本退屈男他衣裳が見つかったことにも少しふれている。また、最後に甲斐荘のフィルモグラフィとして44本がリストアップされている★23。以上が、映画界での甲斐荘についてこれまで書かれた記述と研究である。

甲斐荘が京都画壇を離れてから、友人の世話で個展を開くことはあっても主には映画界で長きにわたり考証家として生きてきた。だが、これまで甲斐荘について書かれたものはほとんどが日本画家甲斐庄楠音についてであり、映画界での仕事は溝口監督が主に語られる時に溝口を支える考証家としてとりあげられることにほぼ限られており、あとは栗田の書籍の一節と右太衛門が自ら語る甲斐荘と作った衣裳の話、井川、西岡など映画美術家が語る撮影所での甲斐荘の話のみであった。

甲斐荘が考証家として松竹や東映で担当した旗本退屈男やその他多くの作品そして衣裳については、これまで研究の対象としてはみなされておらず、映画人甲斐庄楠音についての論文自体が少なく、そして溝口関連以外での研究論文はない。そのことは「溝口が死去したのをきっかけに映画界を去り」とWikipediaにと記述されていることにも現れている。後ほど述べるように実際には溝口とは

★11——市川(1984)⑧。

★12——市川(1986)p.87。

★13——市川(1992)p.155。

★14——市川(1994)p.9。

★15——「二人の女人賛歌」栗田(1987)pp.159-162。

★16——「『旗本退屈男』の衣裳」栗田(1987)p.165。

★17——斎藤(2015)p.33。

★18——「甲斐庄楠音映画作品一覧」池田(1997)p.159。

★19——井川(1997)pp.256-265。

★20——西岡(1997)pp.266-276。

★21——池田(1997)pp.252-255。

★22——「すべて自分に尽くさなければ気が済まない溝口と、時に八方美人になる甲斐庄では先が見えていた。加えて、溝口好みのリアリズム、考証と心理を基にした衣裳にかけて、緻密な設計をする上野芳生が表舞台に出てきてからは、甲斐庄は溝口映画と別れるしかなかった。」(山口1998、pp.122-123)。

★23——小川佐和子(2020)pp.190-207。

『雨月物語』の1953年以降公式には仕事をしておらず、甲斐荘の担当する映画作品本数のピークは溝口死去の翌年1957年である。

そしてその後2019年7月30日の共同通信社による旗本退屈男衣裳発見の記事まで、甲斐荘が携わった衣裳は衣裳倉庫の中で人知れず眠っており、甲斐荘の映画衣裳についての研究は行われず、話題に取り上げられることもなかった。

本論では、溝口健二のかかわりの中でしかこれまで研究されていない日本画家甲斐荘楠音が人生の後半生を費やした映画界での仕事について、限りある中ではあるが担当した作品の全体像を調査、データ分析し、松竹、東映、大映、太秦三大撮影所での甲斐荘の役割を論じ日本映画界全盛期の時代に甲斐荘が行った仕事の功績を明らかにする。

そして、今、日本画家として再注目を浴びつつある甲斐荘楠音が映画界で作り上げ忘れられた衣裳の芸術的再評価のために、本論が基礎資料として活用され、衣裳デザインの歴史的背景、美術的価値の検討など甲斐荘の新たな研究が生まれることを願っている。

1-3. 調査研究方法

甲斐荘楠音がかかわっている映画の判断方法としては、映画の中で流れるテロップに名前の記載されていることを確認することである。しかし、古い映画になればなるほどその映像は世に出ておらず映画フィルム原版的な作品も多い。その場合の確認方法として映画の審査台本がある。審査台本とは撮影台本とは違い完成した映画を記録担当が見てセリフやタイトルテロップを詳細に書き写したもので映画会社各社が映倫に提出してきた。この審査台本を確認することは実際の映画テロップを確認することと同じであり、まずは審査台本に記載されたスタッフタイトルに甲斐荘楠音の名前を見つける作業を行った。

次に、審査台本がない作品は文化庁「日本映画情報システム」★24、「日本映画データベース」★25のデータを調査した。国立映画アーカイブ所蔵作品についてのスタッフテロップは「日本映画情報システム」から調査できる。日本映画データベース（JMD b）は長年にわたり個人によって蓄積されたデータベースであるがその収集データ量は「日本映画情報システム」に匹敵する。相互を確認することにより高い精度をめざした。

以上の方法で確認が取れないけれども可能性が疑われるものは、映画村資料室が所蔵するおよそ1万5千冊の撮影台本、2万3千枚を超えるポスターから当該作品の撮影台本、ポスターを検索システムを使って具体的に取り出し調査した★26。その他甲斐荘に関係しそうな人物の著作を調べた。また、当時の衣裳担当者や関係者をたずねその所有台本を確認したり話をうかがった。

そして、松竹作品の調査では松竹大谷図書館にご協力いただき、甲斐荘が映画界に出入りした戦後1945年から1965年までの松竹京都で作られた368作品の同館所蔵の審査用台本の中から204本の時代劇作品のタイトルテロップを調査し甲斐荘に関わった作品を絞り込んだ★27。

また、松竹撮影所にお願ひし甲斐荘が撮影所出入りした当時の松竹撮影所の衣裳担当者塚本豊にインタビューも行った★28。さらに映画村所蔵の甲斐荘担当作品の松竹ポスター、スチールをデジタルデータ化し、その衣裳画像を資料としてまとめた。

次に同じく東映京都撮影所に所蔵されている1076本の映倫審査用台本を確認し、考証としてタイトルテロップに甲斐荘の名前が表記されている作品を調べ

★24——文化庁「日本映画情報システム」(<https://www.japanese-cinema-db.jp/Details?id=21750>)。

★25——「日本映画データベース(Japan Movie Database)」(<http://www.jmdb.ne.jp/>)。

★26——映画村図書室(<https://www.toei-eigamura-library.com/>)。

★27——松竹大谷図書館 2019年9月12日13日14日山口調査。

★28——元松竹衣裳責任者塚本豊インタビュー 2021年3月25日10時から1時間 場所：松竹撮影所 質問者：山口。

た。また、市川右太衛門の自著やインタビュー記事を調べ、東映の現在の衣裳担当者である古賀博隆★29、甲斐荘と実際に仕事をした当時の衣裳担当者岩迫保★30と美術担当者故矢田精治には直接インタビューを行ない★31、同じく美術担当だった石原昭に電話インタビューした。北大路欣也に東京で★32、里見浩太郎には映画村で話をうかがった★33。そして、東映社史や社内報から当時の担当者インタビュー記事を拾い出し、また映画村資料室に所蔵している甲斐荘担当作品のポスター、スチール、プレスシート等資料をデジタルデータ化し資料としてまとめた。そのデジタル資料を基に衣裳担当の古賀に膨大な撮影用衣装の中から一致する衣装を探し出す作業をお願いした。

大映、新東宝、日活、リリア・アルバの甲斐荘担当作品については審査台本が確認できなかったため、文化庁「日本映画情報システム」、「日本映画データベース」、映画村資料室所蔵の撮影台本を調査した。また、視聴可能なVHS、DVD映像、配信映像等のタイトルテロップ、関連書籍、映画村所蔵資料等も確認した。

甲斐荘楠音について書かれた書籍、雑誌なども参照し、記録に残る範囲での甲斐荘が担当した映画リストを作成した（参考資料2・3・4）★34。

そしてこのリストをもとに、甲斐荘が担当した作品の軌跡を俯瞰して検討するために、年度別、会社別、監督別、主演俳優別に再リスタンディングし、映画専門誌、関連書籍、展示会図録、データベースおよびホームページなどの資料において甲斐荘に関わる言説に関する文献と合わせてそれぞれ分析考察をおこなった。

最後に当時の日本映画の市況、太秦時代劇の占める配給収入★35について調査し、その中で甲斐荘が担当した作品が各会社でどのような興行価値を持っていたかを調べた。そこから、監督やスターが甲斐荘に求めた芸術的役割と功績に加え興行的に日本映画界に果たした役割と功績を考察した。

2. 映画界での甲斐荘楠音担当作品の調査結果報告と分析

2-1. 映画界での略歴と年度別担当作品数の調査報告と分析

甲斐荘楠音は、新藤兼人とのインタビューで、1939年に松竹下加茂にて、内藤の影武者として、溝口健二監督『残菊物語』の手伝いをしたと語っている★36。残念ながらスタッフテロップには内藤の名前は出ておらず、下の名前職種もわからない。調査しても今のところ内藤という当時の松竹スタッフは発見できていない★37。続いて1940年冬島泰三監督『仇討恋人形』に美術として参加、この作品から名前を出して映画界での活動を始める★38。また、甲斐荘は同インタビューで、溝口とは『芸道一代男』から正式に仕事をしたとも述べている。1940年松竹は太秦の元マキノトーキー撮影所を買い取り、松竹太秦撮影所として、溝口監督が作る大作映画専用撮影所として使用を開始した★39。1941年甲斐荘はその撮影所にて撮影の溝口監督『芸道一代男』に時代考証で、『元禄忠臣蔵前篇』と1942年の『元禄忠臣蔵後篇』に風俗考証としてかわり、1945年戦争末期には下加茂撮影所にて溝口監督『名刀美女丸』に美術考証として参加した。

戦後も1946年に松竹溝口作品『歌麿をめぐる五人の女』の時代考証をはじめ、戦時中に誕生した大映太秦撮影所で、1948年野淵昶監督の『好色五人女』では美術考証、『千姫御殿』には風俗考証として参画した。それ以降、松竹を代表する様々な名監督作品に風俗考証、時代考証として協力し、松竹を中心に活動、また大映の伊藤大輔監督など巨匠作品にも請われ参加した。

★29——東映京都撮影所衣裳責任者古賀博隆インタビュー 2019年7月30日 場所：東映京都撮影所衣裳倉庫 質問者：山口。

★30——元東映京都撮影所衣裳担当者岩迫保インタビュー 2019年7月30日 場所：東映京都撮影所衣裳倉庫 質問者：山口。

★31——元東映美術デザイナー矢田精治インタビュー 2020年6月15日14時から30分、場所：東映太秦映画村 質問者：山口。

★32——市川右太衛門子息俳優北大路欣也会話 2019年7月5日 場所：東京如水会館 会話者：山口。

★33——俳優里見浩太郎会話 2021年4月4日 場所：東映太秦映画村 会話者：山口。

★34——松竹、東映の審査台本に記載のクレジット情報に基づき調査を進め173本が確認できた。クレジット表記がない作品でも甲斐荘が担当した作品が数多くあり、その確認作業として撮影台本他の調査を進め、そこから2021年8月30日現在で他56本の作品が見つかった。全作品の全段階の撮影台本のクレジットを確認することは困難であるが、徐々に調査を進めており、また、大映などの審査台本の調査はできていないので、調査が進めば今後また更新修正されることになる可能性も十分ある。その点で表1～表3、および参考資料2～参考資料11の資料は「2021年8月30日現在」時点におけるものである。

★35——映画の入場料収入は興行収入（興収）と言い、配給収入（配収）は興行収入から、配給会社との契約に基づいた映画館の取り分を差し引いて配給会社に渡す、配給会社の収入のことである。大手映画会社が集まった業界団体である日本映画製作者連盟（映連）は、1999年まで映画の成績を配給収入で発表していたが、2000年から興行収入にて発表する方針が変わり、それに従って各映画会社も各作品の実績数字を興行収入で発表するようになった。

★36——スタッフクレジットには別人物が出ているが実際の業務は甲斐荘が行ったことを「影武者」という言葉で述べている（新藤1975、p.238。）。

★37——小川は、内藤は甲斐荘の記憶の誤りだろうと述べている（小川2020、p.213注釈14）。

★38——日本映画データベース「仇討恋人形」（<http://www.jmdb.ne.jp/1940/bp001130.htm>）。松竹(1940)によれば、甲斐荘は美術でクレジットされている。

★39——松竹(1964)p.293。

戦後、日本に駐留したGHQは、敵討ちを促す恐れがあるとして、戦前に太秦でたくさん作られていた剣戟を主とするチャンバラ映画を禁止した。しかし、1950年のサンフランシスコ講和条約締結によって、GHQの撤退が決まったことで、チャンバラ映画解禁の雰囲気生まれ、1951年8月、ついに時代劇映画は月1本というこれまでの本数制限の撤廃が決定された★40。

★40——東映(1992)II p.12、市川(1984)②。

その1951年に発足した東映は片岡千恵蔵、市川右太衛門を筆頭に戦前の時代劇大スターや悪役陣など数多くの時代劇俳優が集まり、時代劇の東映としてそこから大躍進をとげた。東映の重役スター市川右太衛門は1950年に満を持して東映の前身東横映画にて、戦前に人気を集めた旗本退屈男を再開する。そしてその時右太衛門は退屈男の衣裳製作を戦前から退屈男衣裳をお願いしていた甲斐荘楠音に委ねる★41。退屈男映画は戦前同様大ヒットし、東映になってもヒットを重ねて盆正月を飾る名物シリーズとなり、甲斐荘は1963年東映での退屈男20作目となった最終作まで衣裳考証を行った。

★41——市川(1986)p.87、市川(1992)p.155、市川(1994)p.9、東映(1992)p.101。

1951年7月には松竹も撮影所の主体を下加茂から太秦に移し、大映、東映と大手時代劇撮影所が太秦に集中することとなった★42。そして翌1952年にこれまで禁止されていたチャンバラ復活を受けた時代劇ブームが起これり太秦撮影所の時代劇映画製作本数が大幅に増加し、甲斐荘も太秦の三つの撮影所を股に掛けて活動し始め担当する映画も一挙に拡大した。

★42——松竹(1964)p.317。

そして、1953年には甲斐荘が風俗考証として携わった大映溝口監督『雨月物語』がヴェネチア国際映画祭銀獅子賞を受賞し、1955年には甲斐荘自身がその作品の衣裳で米国アカデミー賞衣裳部門にノミネートされる栄誉を得た。また、映画界では着実に進むテレビ放送の動きに対抗するべく各社映画のカラー化やワイド化を検討しそれぞれが実験作を製作して行くが、甲斐荘は1953年に東映にて東映初カラー作品『日輪』で時代考証を担当した。

『雨月物語』(1953年)以降衣裳考証を甲斐荘から上野芳生に代えた溝口健二が1956年に逝去する。そしてこの年から各社カラー作品が次々と登場しカラーを印象付ける華やかな色彩、デザインの衣裳に注目が集まり甲斐荘活躍の場が拡大した。

この年の正月にはじまった東映オールスター映画は大ヒットをとばし、以降1963年まで盆正月の東映の看板人気シリーズとなった。東映大躍進の大きな原動力となったこのシリーズで、甲斐荘は全作品の衣裳考証を担当し、盆正月はオールスター映画と旗本退屈男で東映に大きく貢献した。このように今回の調査データから東映時代劇にとって甲斐荘はなくてはならない存在であったことが考察できた。

また松竹でも歌う大スターとして戦前に人気を博した高田浩吉が、1951年に大人気の美空ひばりと共演して以来再び人気復活し勢いを取り戻した。そして1953年以降には高田浩吉主演作が次々と作られ、甲斐荘がその衣裳考証を担当した。中でも『伝七捕物帖』シリーズは、東映市川右太衛門の『旗本退屈男』シリーズに対抗する、松竹の大人気シリーズとなり1959年まで続いた。そしてそのほとんどの作品で甲斐荘は衣裳考証として働いた。1960年高田浩吉は東映に移籍した。

大映の衣裳考証は主に上野芳生が支え、甲斐荘は伊藤大輔作品などに参加したが松竹や東映ほどは活用されてはいない。

そして映画入場者が10億人を超えた1957年から1960年にかけて甲斐荘の担当作品本数もピークを迎える。太秦の時代劇の隆盛とともにそれを衣裳の面から支えた甲斐荘の仕事も大幅に増加した。

しかし、1959年の皇太子ご成婚あたりから一般家庭に普及が進んだテレビの影響で映画の衰退が始まり1961年には時代劇映画の製作本数も大幅に減少する。以降甲斐荘は巨匠の大作中心に参画するも担当作品本数は激減し、1965年伊藤大輔監督東映『徳川家康』を最後に映画界から離れる。

甲斐荘楠音は1939年から1965年まで26年にわたり京都の映画界、主に太秦の松竹、東映、大映の三大撮影所に股に掛けて活躍し、1957年をピークに少なくとも229本以上の作品に風俗考証、時代考証、衣裳考証として携わった。それはその時代の松竹、東映が力を注いだ時代劇大作、人気作品の大部分を占める(表1)。

年	担当本数	その年の代表的作品							
		作品名	会社名	封切日		主演	監督	担当表記	氏名表記
				月	日				
1939	1	残菊物語	松竹	10	10	花柳章太郎	溝口健二	(なし)	(なし)
1940	1	仇討恋人形	松竹	3	14	坪井哲	冬島泰三	美術	甲斐荘楠音
1941	2	芸道一代男	松竹	2	9	中村扇雀	溝口健二	(なし)	(なし)
1942	1	元禄忠臣蔵 後篇	松竹	2	11	河原崎長十郎	溝口健二	風俗考証	甲斐荘楠音
1943	0	(なし)							
1944	0	(なし)							
1945	1	名刀美女丸	松竹	2	8	花柳章太郎	溝口健二	美術考証	甲斐荘楠音
1946	1	歌麿をめぐる五人の女	松竹	12	17	坂東蓑助	溝口健二	時代考証	甲斐荘楠音
1947	1	女優須磨子の恋	松竹	8	16	田中絹代	溝口健二	風俗考証	甲斐荘楠音
1948	3	好色五人女	大映	6	10	花柳小菊	野淵昶	美術考証	甲斐荘楠音
1949	5	新釋四谷怪談 前篇	松竹	7	11	田中絹代	木下恵介	時代考証	甲斐荘楠音
1950	8	影法師 第一部	松竹	1	3	阪東妻三郎	大曾根辰夫	時代考証	甲斐荘楠音
1951	4	大江戸五人男	松竹	11	22	阪東妻三郎	伊藤大輔	時代考証	甲斐荘楠音
1952	14	次郎吉格子	松竹	2	22	長谷川一夫	伊藤大輔	時代考証	甲斐荘楠音
1953	21	雨月物語	大映	3	26	京マチ子	溝口健二	風俗考証	甲斐荘楠音
1954	25	千姫	大映	10	20	京マチ子	木村恵吾	時代考証	甲斐荘楠音
1955	20	繪島生島	松竹	10	30	淡島千景	大庭秀雄	衣裳風俗考証	甲斐荘楠音
1956	16	赤穂浪士	東映	1	15	片岡千恵蔵	松田定次	時代考証	甲斐荘楠音
1957	26	大忠臣蔵	松竹	8	10	市川猿之助	大曾根辰保	衣裳考証	甲斐荘楠音
1958	24	旗本退屈男	東映	8	12	市川右太衛門	松田定次	衣裳考証	甲斐荘楠音
1959	23	花の幡随院	松竹	9	13	松本幸四郎	大曾根辰保	衣裳考証	甲斐荘楠音
1960	18	親鸞	東映	6	21	中村錦之助	田坂具隆	衣裳考証	甲斐荘楠音
1961	4	反逆児	東映	11	8	中村錦之助	伊藤大輔	衣裳考証	甲斐荘楠音
1962	3	源九郎義経	東映	5	13	北大路欣也	松田定次	衣裳考証	甲斐荘楠音
1963	6	残菊物語	松竹	10	17	岡田茉莉子	大庭秀雄	衣裳考証	甲斐荘楠音
1964	0	(なし)							
1965	1	徳川家康	東映	1	3	中村錦之助	伊藤大輔	衣裳考証	甲斐荘楠音
合計本数	229								

表1 甲斐荘楠音年度別担当作品数一覧表

2-2. 甲斐荘楠音担当作品における会社別調査報告と分析

①甲斐荘楠音担当松竹作品120本の調査報告と分析

調査の結果、2021年8月30日段階で松竹では京都時代劇作品204本のうち120本で甲斐荘が考証を担当したことを確認できた。それはすなわち映画全盛期の松竹時代劇において半数以上の作品に彼が衣裳を中心とした考証家として関係していたということであり、甲斐荘が松竹時代劇の衣裳部門で権威を持ちリードしていたということである。

甲斐荘は松竹溝口作品『残菊物語』から映画界のキャリアを始め、溝口『芸道一代男』『元禄忠臣蔵』で風俗考証家としての評価が高まった。しかし、溝口が

『我が戀は燃えぬ』(1949)を最後に松竹から離れた後も甲斐荘は松竹でも仕事を続け、吉村公三郎、木下恵介、大曾根辰夫、内出好吉、大庭秀雄、野村芳太郎、福田晴一など松竹を代表する名監督の時代劇作品で活躍した。

大物歌舞伎俳優である八代目松本幸四郎主演の『花の生涯』『忠臣蔵』『荒木又右衛門』『花の幡随院』『敵は本能寺にあり』『天下御免』、九代目市川海老蔵主演の『江戸の夕映』、二代目市川猿之助主演の『大忠臣蔵』といった大作映画はすべて甲斐荘が衣裳考証している。

松竹初の時代劇カラー作品『繪島生島』、グランドスコープ初時代劇作品『大忠臣蔵』など会社の総力を傾けたエポックメイキングな作品の衣裳考証も甲斐荘が担当である。

また、松竹京都時代劇を支えた大ヒット娯楽時代劇作品『伝七捕物帖』シリーズ11本のうち10本に衣裳考証等がクレジット表記されている(参考資料13)。

松竹の映画プロデューサーだった斎藤次男は、衣裳合わせでは楠音が時代考証の専門家として各俳優の衣裳を厳しくチェックし、その了解で初めて衣裳が決められていたと述べている★43。

塚本豊に松竹衣裳の担当者だった新人の頃、晩年の甲斐荘と『無宿人別帳』『丹下左膳』で間接的に仕事をした時のことを聞くと、甲斐荘はあちらこちらの呉服屋で見繕ってきては「これ使って」などと言って反物を持ちこみ作品に使っていたとのことである。また、松竹の作品用に作った反物と同じ柄の反物を東映にも持って行くこともあったと語る。塚本によると当時の衣裳合わせは監督と加藤春江や永野キヨ子など撮影所衣裳担当者で行っており俳優は参加せず通常俳優は衣裳デザインには関与していない模様で、衣裳合わせに来た甲斐荘は脇役まですべての衣裳をチェックしたとのことである。甲斐荘は衣裳部屋に入り浸り、衣裳担当のおばあさん方とよく話をしていたとうかがった。また当時、映画衣裳は撮影所が所有し衣裳担当が管理していたが、撮影所が持っている衣裳で足りない場合の補充や着付けの手助けが必要な時は歌舞伎の衣裳を管理運営する松竹衣裳に入って貰っていたとのことであった。

甲斐荘楠音が太秦の撮影所で一番多くの作品を手掛けたのが松竹であった。逆に彼は映画全盛期の松竹京都時代劇衣裳部門のクリエイティブにおける中心人物として欠かせぬ存在であり、衣裳考証を通じて松竹娯楽時代劇映画に巨匠溝口健二や新藤兼人が甲斐荘について語った「品」と米国アカデミー賞衣裳部門ノミネートによる「格」をもたらしたと言える。

②甲斐荘楠音担当東映作品91本の調査報告と分析

2021年8月30日段階で判明した甲斐荘が担当した東映作品は91本である。そのうち、市川右太衛門が出演した作品が71本と大半を占める。

東映作品のタイトルテロップに甲斐荘の名前が確認できる最初の作品は1950年萩原遼監督片岡千恵蔵主演『赤穂城』である。しかし、先述の通り市川右太衛門自身がその著作やインタビューにおいて「戦後『旗本退屈男』を復活するにあたり甲斐荘楠音に衣裳をお願いした」と述べている。タイトルテロップに甲斐荘の記載がない『旗本退屈男 謎の大文字』をはじめとする退屈男衣裳を担当した岩途保に私がインタビュー確認したことからも、退屈男シリーズ衣裳デザインに甲斐荘が関係していることは明らかである★44。

実際、東映での市川右太衛門出演作品107本(東横映画2本含む)のうちタイトルテロップに甲斐荘の名前が記載されている作品は51本あった。名前記載作品のうち、右太衛門主演作品は42本を数える。右太衛門主演の『旗本退屈男』シ

★43——斎藤(2015)p.33

★44——岩迫は右太衛門が作った衣裳管理会社日東一商事に勤め、その後東映に衣裳担当として入社した。東横時代から旗本退屈男の衣裳に携わってきた。

リーズ20本のうち12本はタイトルテロップに表記がなかったが、撮影台本などで5本に参加していることの確認が取れ、残りの7本も、右太衛門や当時の衣裳担当者岩迫保の話により参加が明らかであるため、ここまでの主演作品の計は54本になる。タイトルテロップに記載のない、退屈男以外の右太衛門主演作品についても、撮影台本から6本特定できたので、右太衛門主演の甲斐荘担当作品は合計で60本になる。右太衛門出演東映作品でも2本、撮影台本調査から甲斐荘の参加がわかった。結果、東映では少なくとも91本に甲斐荘が考証を担当し、そのうち右太衛門東映出演作品で71本、右太衛門主演作品が60本甲斐荘と関係していることを確認した。

また、右太衛門は著作やインタビューで何度も戦前から甲斐荘に旗本退屈男衣裳のデザインをお願いしていたと語っているが、戦前の右太衛門と甲斐荘の仕事については明確な資料はみつかっていない。しかし戦後すぐの1948年に市川右太衛門が劇団を立ち上げ地方巡業にでた際の舞台パンフレットに「旗本退屈男衣裳考案舞臺装置・甲斐荘楠音」と記載がある。これらのことから戦前からの二人の付き合いが想像できよう(写真5)。そして、市川右太衛門の招きで東映の前身である東横映画の時に、『旗本退屈男捕物控』に参加した甲斐荘は、映画を通じ松田定次監督、佐々木康監督などと知り合い、その後の東映娯楽大作の衣裳考証として大活躍したと思われる。

甲斐荘は、東映が社運をかけて製作した東映初カラー作品『日輪』から、東映時代劇を代表するオールスターカラー大作13本、すべてに衣裳考証として参加している。

そして、東映カラー映画において、東映人気を支える俳優、片岡千恵蔵・市川右太衛門・大友柳太朗・月形龍之介、大スター主演の初カラー作品はすべて甲斐荘が衣裳考証を担当した。また、東映が大映に先駆けて公開した日本初カラーワイドスクリーン作品大友柳太朗主演松田定次監督『鳳城の花嫁』の衣裳考証も甲斐荘が担当である。

ポスターに甲斐荘の名前が確認できた作品は『赤穂城』『続赤穂城』『日輪』『創立5周年記念 赤穂浪士』『旗本退屈男 謎の幽霊船』『任侠清水港』『隼人族の叛乱』という東映初期を代表する大作である。東映は甲斐荘を作品の豪華さ、芸術性を示す大家として戦略的に使ったと考えられる。東映時代劇全盛期を代表する松田定次監督をはじめとして、佐々木康、渡辺邦男、河野寿一、萩原遼、小沢茂弘、加藤泰など東映時代劇を彩る監督たちの娯楽作品にとって、映画の花である衣裳の考証家、デザイナー、プロデューサーとしての甲斐荘はかかせぬ存在であった。東映京都に招かれた伊藤大輔、田坂具隆などの巨匠作品でも、彼らは衣裳考証を甲斐荘に頼った。

以上のように、甲斐荘は時代劇王国東映京都撮影所の娯楽時代劇大作にも衣裳考証を通じ、溝口や新藤の語る「品」とアカデミー賞ノミネートの衣裳考証大家が考証した作品として映画に「格」を与え、東映は大作映画の「格」を示すためにポスターに衣裳考証として甲斐荘楠音の名前を記載した。



写真5「市川右太衛門初公演特輯」パンフレット(1948年)東映太秦映画村資料室

③甲斐荘楠音担当新東宝2本大映14本日活1本リリア・アルバ1本の調査報告と分析

溝口健二監督は『西鶴一代女』を撮るために松竹を離れ、児井プロダクションと新東宝に移り1950年『雪夫人絵図』を撮影した後の1952年に衣裳考証上野芳生で『西鶴一代女』を撮影した。両作品ともタイトルテロップに甲斐荘の名前は入っていないが『雪夫人絵図』については依田義賢の著作★45から参加していたことは確実である。また甲斐荘は新東宝で1955年の伊藤大輔監督『王将一代』に風俗考証として参加した。結果新東宝での甲斐荘はこの2本を担当したことになる(参考資料4)。

大映では1948年野淵和監督『好色五人女』美術考証、同監督『千姫御殿』風俗考証、翌1949年、伊藤大輔監督『山を飛ぶ花笠』に時代考証として参加、1951年には溝口監督『お遊さま』で衣裳考証、翌1952年に衣笠貞之助監督『修羅城秘聞 前篇』『修羅城秘聞 後編』にて衣裳考証を担当した。そして1953年ヴェネチア国際映画祭銀獅子賞受賞の溝口監督『雨月物語』で風俗考証を担当、その作品で甲斐荘は1955年アカデミー賞衣裳部門にノミネートされた。しかし『雨月物語』以降も大映で活躍し、その後、大映取締役となった溝口とはそれ以後作品を共にしていない。『近松物語』『山椒大夫』などこれまでなら参加していただろう作品は、京都衣裳上野芳生が衣裳考証を担当している。

甲斐荘は溝口作品から離れた後も、大映で伊藤大輔監督と『獅子の座』『番町皿屋敷 お菊と播磨』『春琴物語』『地獄花』『女と海賊』5作品で仕事をしている。伊藤は松竹、東映作品でも彼を頼りにしており、1965年には映画界を離れていた甲斐荘を東映『徳川家康』で呼ぶほどに、その衣裳考証に信頼を置いていた。またその他に、木村恵吾監督『千姫』においては時代考証を、加戸敏監督『刃傷未遂』で考証を担当し、1959年の伊藤大輔監督『女と海賊』を最後に大映から離れる。結果、大映では14本甲斐荘が考証を担当した作品が見つかった。なお大映では「甲斐荘」ではない「甲斐庄楠音」での表記が7作品で見受けられる。また、大映ポスターからは『好色五人女』『お菊と播磨』『千姫』に甲斐荘の名前が確認できた(参考資料4)。

日活では総天然色日活スコープ第1作冬島泰三監督『月下の若武者』にて衣裳考証を担当した。この作品は太秦の大映撮影所で撮影された。独立プロ、リリア・アルバ映画が製作した大岩大介監督の『戦国秘聞』においても時代考証を行っている(参考資料4)。

溝口健二監督『雨月物語』のヴェネチア国際映画祭銀獅子賞受賞とアカデミー賞ノミネートによって甲斐荘の名前は広く知られるようになったが、その後大映は伊藤大輔監督で5本、木村恵吾監督、加戸敏監督で各1本の計7本のみ甲斐荘をつかっているが、その他大作は上野芳生が衣裳考証を担当しており、松竹や東映のように甲斐荘を多用することはなかった。

2-3. 甲斐荘楠音担当作品における監督別の分析

甲斐荘楠音は京都の映画界に関係し溝口健二にその才能を認められ次々とその作品に起用された。そしてその後京都の時代劇映画全盛時代の各社を代表する監督や日本映画界の巨匠監督と太秦で数多く仕事をした。

溝口健二、伊藤大輔をはじめ考証にこだわる巨匠たちも甲斐荘を重用したが実際は牧野省三のDNAを伝え東映京都撮影所を代表する松田定次監督、衣笠貞之助に学び松竹京都撮影所を代表する大曾根辰夫監督、そしてそれぞれの撮影所を次に代表する監督というべき東映の佐々木康、松竹の福田晴一といった娯楽職人

監督たちに衣裳考証として信頼され、松田38本、大曾根27本、佐々木24本、福田18本の作品に起用された。彼らは大衆娯楽作品を数多く作ったが、考証にも詳しく大衆の好む衣裳にもこだわるプロフェッショナルであった(表2)。

溝口健二は甲斐庄の持つ品(ひん)を生み出す力を活用し作品の芸術性を高めていった。戦時中の『残菊物語』で出会い『元禄忠臣蔵』で楠音の風俗考証力への信頼を高め、戦後1953年『雨月物語』でクライマックスを迎えるまで仕事を共にした。先述したように新東宝『西鶴一代女』は溝口作品『武蔵野夫人』を製作した児井プロダクション児井英生の尽力で枚方公園にて撮影に至った作品である。これまでの関係から言えば楠音が担当するはずであるが表に出た範囲ではかかわっていない。そして以後溝口は京都衣裳の上野芳生を新たに採用しそれは溝口の死まで続いた。それについて映画評論家の山口猛は「すべて自分に尽くさなければ気が済まない溝口と時に八方美人になる甲斐庄では先が見えていた。」と語っている(参考資料5)★46。

★46——山口(1998)p.123。

順	監督	会社	本数	代表的作品				
				作品名	主演俳優名	封切年	月	日
1	松田定次	東映	38	赤穂浪士	片岡千恵蔵	1956	1	15
2	大曾根辰夫	松竹	27	忠臣蔵 花の巻雪の巻	松本幸四郎	1954	10	17
3	佐々木康	東映	24	旗本退屈男 謎の百万両	市川右太衛門	1954	8	31
4	福田晴一	松竹	18	傳七捕物帖 女郎蜘蛛	高田浩吉	1955	4	19
5	渡辺邦男	東映	17	日輪	片岡千恵蔵	1953	11	18
6	伊藤大輔	大映	13	山を飛ぶ花笠	尾上梅幸	1949	9	11
7	溝口健二	大映	11	雨月物語	京マチ子	1953	3	26
7	萩原遼	東映	9	赤穂城	片岡千恵蔵	1952	4	24
9	内出好吉	松竹	7	月形半平太	市川右太衛門	1952	5	29
10	倉橋良介	松竹	6	勇み肌千両男	高田浩吉	1958	2	26
10	酒井辰雄	松竹	6	お富と切られ与三郎	高田浩吉	1957	11	12
11	小沢茂弘	東映	4	花まつり男道中	市川右太衛門	1957	1	29
11	冬島泰三	松竹	4	お役者小僧	高田浩吉	1953	4	15
13	大庭秀雄	松竹	3	繪島生島	淡島千景	1955	10	30
13	岩間鶴夫	松竹	3	八州遊俠傳 白鷺三味線	高田浩吉	1955	1	9
13	酒井欣也	松竹	3	伝七捕物帖 女肌地獄	高田浩吉	1959	2	10
13	堀内真直	松竹	3	荒木又右衛門	松本幸四郎	1955	9	21
13	加藤泰	東映	3	魔の紅蜥蜴	市川右太衛門	1957	7	23
13	河野寿一	東映	3	阿修羅四天王	市川右太衛門	1955	4	26
19	野村芳太郎	松竹	2	鞍馬天狗 青面夜叉	島田正吾	1953	9	22
19	原研吉	松竹	2	鮮血の手型 左近捕物帖	阪東妻三郎	1950	12	2
19	木下恵介	松竹	2	新釋四谷怪談 前篇	田中絹代	1949	7	11
19	田坂具隆	東映	2	親鸞	中村錦之助	1960	6	21
19	中川信夫	東映	2	旗本退屈男 謎の珊瑚屋敷	市川右太衛門	1962	1	23
19	野淵昶	大映	2	好色五人女	花柳小菊	1948	6	10
19	衣笠貞之助	大映	2	修羅城秘聞 双龍の巻	長谷川一夫	1952	3	20
19	木村恵吾	大映	2	千姫	京マチ子	1954	10	20
27	中村登	松竹	1	江戸の夕映	市川海老蔵	1954	9	1
27	マキノ雅弘	松竹	1	武蔵と小次郎	辰巳柳太郎	1952	10	15
27	芦原正	松竹	1	黒姫秘帳	中村賀津雄	1956	6	29
27	的井邦雄	松竹	1	妻恋道中	高田浩吉	1958	11	23
27	吉村公三郎	松竹	1	森の石松	藤田進	1949	6	12
27	内川清一郎	松竹	1	丹下左膳	丹波哲郎	1963	11	17
27	井上和男	松竹	1	無宿人別帳	佐田啓二	1963	1	27
27	井上金太郎	松竹	1	お銀清次郎 色ざんげ	山路ふみ子	1948	6	21
27	加戸敏	大映	1	刃傷未遂	長谷川一夫	1957	5	13
27	大岩大介	リリイ・アルパ	1	戦国秘聞	山村聡	1955	2	25
27	佐伯清	東映	1	愛染道中 男の血祭	市川右太衛門	1954	1	27
		合計	229					

表2 監督別甲斐庄楠音担当作品実績数一覧表

1949年溝口が『西鶴一代女』の件で松竹を離れた後も甲斐荘は先述の通り松竹での実績を積み松竹の衣装部門を支える柱として信頼され1952年以降松竹での担当作品数が増加した(参考資料2)。1949年大映「山を飛ぶ花笠」で仕事をした伊藤大輔からの信頼も得て、彼の松竹、大映での作品にも参画した(参考資料7)。1951年に発足した東映でも重宝され、甲斐荘の仕事は大幅に増加した(参考資料3)。

溝口と別れた後の甲斐荘は他の大監督たちの作品に参加し、1950年代時代劇全盛の太秦大撮影所を股にかけ精力的に活動した。その中でも東映京都の代表監督である松田定次作品は38本(参考資料8)、松竹京都の代表監督である大曾根辰夫作品は11本を数えた(参考資料9)。これに対し単純に本数で比べると溝口健二作品は9本にすぎない。また大衆の評価がわかる興行収入額でも大きな差がある。

娯楽時代劇は戦後映画ブームの中核をなすものであり、ここからわかるように、その大半の作品をてがけた職人監督たちの「美の懐刀」が甲斐荘楠音であったと言える。大衆は素直にスクリーンに、現実にはなかなか見ることのできない美しいもの、きれいなものを求め、職人監督はその期待に応えた。カラー作品になりその傾向はますます拡大した。博物館、美術館がまだまだ少なく、現在のようには旅行にもなかなか行けない時代であり、芝居や歌舞伎に比べ映画は一般大衆にとって美しいものに安価で身近に触れることのできる場でもあった。

甲斐荘は縁の下でそれら娯楽時代劇に日本画家として持つ美的感覚を活用し衣裳に「美」と溝口や新藤の語る「品」を付与したのである。

2-4. 甲斐荘楠音担当作品における主演俳優別の分析

甲斐荘は、京都太秦の東映、松竹、大映時代劇において、大作ばかりでなく、数多くのプログラムピクチャー娯楽作品においても衣裳考証、時代考証、風俗考証として参画し、また、大物俳優たちが主演として初めてチャレンジするカラー作品での衣裳考証を担当した。

甲斐荘は様々な俳優の衣裳に携わったが、東映の市川右太衛門、松竹の高田浩吉の2人が図抜けて多い(表3)。2人とも盆正月人気シリーズの主演である。

担当本数が一番多い東映の市川右太衛門は白塗りの恰幅の良い色男であり、東映の重役を兼ねる大スターだった。戦前映画界に入る前は、市川右一として関西青年歌舞伎で人気を博し、舞踊に長け、舞台も数多く行う芝居役者であった。右太衛門が戦後まもなく行った、当たり役旗本退屈男に扮した芝居の全国巡業にも甲斐荘は衣裳及び舞台美術で参加しており(写真5)、甲斐荘が担当した右太衛門主演映画の数は他の俳優に比べ群を抜いている。右太衛門は戦前から退屈男衣装をお願いしていた甲斐荘に、「戦後初めての退屈男だから、思い切って派手にしたいと考えていたので、早速、声をかけた」と、自著のインタビューで述べており、東横時代から退屈男のタイトルクレジットには名前が出ていないが、これは東映の経営が安定するまでは右太衛門が自前で日東一商事という衣裳会社を作ってそこで衣裳を製作管理していたため直接東映との取引がなかったからと思われる★47。東映退屈男第1作『旗本退屈男捕物控 七人の花嫁』(1950)のポスター衣裳の柄は、甲斐荘の《横櫛》の女性の着物に描かれている竜の柄に似ている(写真6)。また晩年の退屈男作品もタイトルには名前が出ていないが、撮影台本や東映初期の日東一商事から関係していた衣裳担当者岩途保の話から、甲斐荘が初期から衣裳制作に関係していたことがわかった(写真7)。今のところ右太衛門と甲斐荘の関係が記録として残っているのは、右太衛門が徳川綱豊役で出演した

★47——市川(1984)②。

順	主演俳優名	会社名	本数	代表的作品				
				作品名	監督名	封切年	月	日
1	市川右太衛門	東映	62	市川右太衛門三百本出演記念 旗本退屈男	松田定次	1958	8	12
2	高田浩吉	松竹	41	伝七捕物帖 刺青女難	岩間鶴夫	1954	7	6
3	片岡千恵蔵	東映	14	赤穂城	萩原遼	1952	4	24
4	阪東妻三郎	松竹	9	大江戸五人男	伊藤大輔	1951	11	22
5	長谷川一夫	松竹	7	次郎吉格子	伊藤大輔	1952	2	22
5	中村賀津雄	松竹	7	黒姫秘帳	芦原正	1956	6	29
7	中村錦之助	東映	6	曾我兄弟 富士の夜襲	佐々木康	1956	10	17
7	松本幸四郎	松竹	6	忠臣蔵 花の巻雪の巻	大曾根辰夫	1954	10	17
9	田中絹代	松竹	5	我が戀は燃えぬ	溝口健二	1949	2	15
10	大友柳太朗	東映	4	鳳城の花嫁	松田定次	1957	4	2
10	北上弥太郎	松竹	4	柳生の兄弟	内出好吉	1952	8	28
10	嵯峨三智子	松竹	4	おさい権三 燃ゆる恋草	渡辺邦男	1960	5	27
10	田村高広	松竹	4	地獄の百万両	萩原遼	1960	4	15
14	京マチ子	大映	3	雨月物語	溝口健二	1953	3	26
14	近衛十四郎	松竹	3	江戸群盗傳	福田晴一	1958	4	1
14	伴淳三郎	松竹	3	浮世風呂	木村恵吾	1958	8	24
14	美空ひばり	松竹	3	牛若丸	大曾根辰夫	1952	9	17
14	北大路欣也	東映	3	徳川家康	伊藤大輔	1965	1	3
19	河原崎長十郎	松竹	2	元禄忠臣蔵 前篇	溝口健二	1941	12	1
19	辰巳柳太郎	新東宝	2	王将一代	伊藤大輔	1955	10	2
19	月形龍之介	東映	2	水戸黄門	佐々木康	1957	8	11
19	花柳章太郎	松竹	2	名刀美女丸	溝口健二	1945	2	8
19	花柳小菊	大映	2	好色五人女	野淵昶	1948	5	10
19	森美樹	松竹	2	忠臣蔵 暁の陣太鼓	倉橋良介	1958	12	21
25	東千代之介	東映	1	隠密七生記	松田定次	1958	10	1
25	アチャコ	松竹	1	忍術武者修行	福田晴一	1960	1	21
25	嵐寛寿郎	松竹	1	鞍馬天狗 天狗廻状	大曾根辰夫	1952	3	27
25	淡島千景	松竹	1	繪島生島	大庭秀雄	1955	10	30
25	市川海老蔵	松竹	1	江戸の夕映	中村登	1954	9	1
25	市川男女之助	松竹	1	かた破り道中記	福田晴一	1959	3	17
25	市川団子	松竹	1	朝やけ雲の決闘	萩原遼	1959	1	22
25	市川猿之助	松竹	1	大忠臣蔵	大曾根辰保	1957	8	10
25	大川橋蔵	東映	1	新吾十番勝負	松田定次	1959	3	17
25	大木実	松竹	1	大当たり男一代	大曾根辰保	1956	1	22
25	岡田茉莉子	松竹	1	残菊物語	大庭秀雄	1963	10	17
25	尾上梅幸	大映	1	山を飛ぶ花笠	伊藤大輔	1949	9	11
25	佐田啓二	松竹	1	無宿人別帳	井上和男	1963	1	27
25	島田正吾	松竹	1	鞍馬天狗 青面夜叉	野村芳太郎	1953	9	22
25	高千穂ひづる	松竹	1	七人の女掏摸	堀内真直	1958	1	15
25	高橋貞二	松竹	1	濡れ髪権八	大曾根辰夫	1959	3	3
25	丹波哲郎	松竹	1	丹下左膳	内川清一郎	1963	11	17
25	坪井哲	松竹	1	仇討恋人形	冬島泰三	1940	3	14
25	鶴田浩二	大映	1	地獄花	伊藤大輔	1957	6	25
25	長門裕之	日活	1	月下の若武者	冬島泰三	1957	7	9
25	中村扇雀	松竹	1	芸道一代男	溝口健二	1941	2	9
25	阪東壽三郎	松竹	1	悲恋華	原研吉	1950	9	16
25	坂東蓑助	松竹	1	歌麿をめぐる五人の女	溝口健二	1956	12	17
25	藤田進	松竹	1	森の石松	吉村公三郎	1949	6	12
25	松方弘樹	東映	1	中仙道のつむじ風	松田定次	1963	3	31
25	山路ふみ子	松竹	1	お銀清次郎 色ざんげ	井上金太郎	1948	6	21
25	若原雅夫	松竹	1	情火	大庭秀雄	1952	12	10
25	山村聡	リリイ・アルバ	1	戦国秘聞	大岩大介	1955	2	25
25	鰐淵晴子	松竹	1	あんみつ姫の武者修業	大曾根辰保	1960	12	27
			229					

表3 主演俳優別甲斐荘楠音担当作品本数一覧表

1941年松竹溝口監督『元禄忠臣蔵』だけである。

右太衛門の生涯をかけた代表作『旗本退屈男』シリーズは東映で20本作られた。盆と正月の名物企画となり(表7)、翌年の製作が決定すると、まずは甲斐荘を呼び着物のデザインを作らせた。自宅で何十枚ものデザイン画を並べどの着物を製作するか二人で話し合っってメインとなる5領程度を選び生地制作に入り後は百貨店や呉服屋で生地を選んで作った。里見浩太郎に直接話をうかがった所によると、甲斐荘には俳優会館で挨拶をした程度で里見は実際に打ち合わせをしたことはないと言う。俳優は衣裳部で用意された衣裳を着ており、衣裳製作にこだわった右太衛門が特別であったと思われる(参考資料10)。

担当本数が2番目となる松竹の高田浩吉も白塗りの唄う二枚目である。『伝七捕物帖』シリーズを中心に松竹京都の時代劇を伴淳三郎との二枚看板で支えてきた。伝七など庶民役が多いため、本人の衣裳に派手さはないが甲斐荘が担当した作品の数は右太衛門に次いで多い。1960年に東映に移籍してからは第二東映で『伝七捕物帖』などに引き続き出演していたが、甲斐荘は参加していない(参考資料13)。高田(1957)は、映画俳優高田浩吉の自伝であるが、甲斐荘については触れられていないので甲斐荘との関係はわからない。笠岡市立竹喬美術館所蔵の甲斐荘が生前に作成したスクラップブックの中に、着物屋で山積みの反物を前に高田と話をしている甲斐荘の写真があった(参考資料11)。

担当本数が3番目となるのは東映オールスター映画主演が多い片岡千恵蔵の14本だが、オールスター映画の9本には右太衛門も出演しておりそれを除くと5本である。以上から市川右太衛門、高田浩吉二人の役者が甲斐荘にとって映画界では特別な存在であったことが明らかである。



写真6 『旗本退屈男捕物控 七人の花嫁』東映映画(1950)



写真7 写真左から衣裳責任者三上剛・市川右太衛門・甲斐荘楠音 右太衛門自宅にて(東映太秦映画村所蔵)『旗本退屈男 謎の大文字』衣裳

2-5. 東映・松竹・大映各社における太秦時代劇と甲斐荘の占める位置の考察

太秦に撮影所を有する東映、松竹、大映各社の映画全盛期6年間の配給収入上位5作品の表からは、戦後時代劇映画ブームを牽引した太秦三撮影所の各社内での位置を見出すことができる(表4・5・6)。特に東映は東京撮影所よりも太秦にある京都撮影所で製作される時代劇が主流であった。大映も東映までではないが太秦時代劇が配給収入上位を占める。また各社とも1956年からカラー映画が上位を席卷している。その中で東映は甲斐荘作品(太字)が大部分を占める。松竹は大船作品が興行の柱であるが、太秦ヒット時代劇作品の大半は甲斐荘が担当している。

東映は1954年年正月から当時行われていた二本立興行用に毎回新作2本同時配給を始め、長編映画に添えた子供向け中編「東映娯楽版」が大ヒットする。なかでも連続ラジオドラマで人気を集める『新諸国物語』シリーズの『笛吹童子』『紅孔雀』が子供の間でブームとなった。片岡千恵蔵、市川右太衛門、月形龍之介、大友柳太朗、戦前の時代劇スターに加え、「娯楽版」から中村錦之助、東千代之介、伏見扇太郎等若手新スターも生まれ、「時代劇は東映」のキャッチフレーズで時代劇に特化した太秦撮影所時代劇が東映の屋台骨となった。その中でも特に甲斐荘が衣裳を担当した千恵蔵主演オールスター映画と右太衛門主演『旗本退屈男』シリーズは盆正月書き入れ時の定番として東映躍進に著しい貢献をした(表4)。戦前からの大スターのみならず若手新スター主演カラー作品の衣裳を甲斐荘が担当し、そのカラーに映える華やかな衣裳は新スターの売り出しを支えた。東映がカラー化、ワイド化を進めた1957年、58年には配給収入上位5位の内4作品を甲斐荘担当作品が占め、まさに東映時代劇衣裳は甲斐荘であったと言える。

松竹は大船のメロドラマと小津安二郎、五所平之助や木下恵介の文芸作が興行の中心であるが、太秦作品では甲斐荘が衣裳担当した松本幸四郎、市川猿之助など歌舞伎スターによる大作映画と高田浩吉の娯楽作品が人気を集めた。上位5本には入っていないが松竹太秦初カラー作品淡島千景主演『繪島生島』、松竹太秦を代表する時代劇スター高田浩吉初総天然色主演作品『流轉』も甲斐荘が衣裳を担当している。盆正月映画の太秦映画の衣裳のほとんどを甲斐荘が担当した(表7)。大曾根辰夫監督を柱とする松竹太秦時代劇にも甲斐荘は欠かせぬ存在であった。

大映も東映と同じく太秦時代劇が多くを占める。長谷川一夫主演作品が柱であり、市川雷蔵が後を継ぎ女性に人気を博した★48。甲斐荘担当作品は伊藤大輔、木村恵吾両監督の二作品のみ上位5位に入っている。1953年溝口健二監督『祇園囃子』で京都衣裳の上野芳生が衣裳補導として考証を担当して以来、伊藤と木村の二作品を除き、『山椒大夫』や『近松物語』などの大映太秦大作は上野が担当している。昭和20年代には大映で活躍した甲斐荘だが、昭和30年代の時代劇ブームに入ると大映作品を担当することは少なくなった。ヴェネチア映画祭銀獅子賞受賞作品である『雨月物語』の衣裳製作によって甲斐荘はアカデミー賞衣裳部門にノミネートされ有名になったので、甲斐荘といえば大映のイメージが強いが、大映で実際に甲斐荘が担当した作品数は松竹、東映と比べるとかなり少なく、大映作品の配給収入上位5位の中で甲斐荘担当作品が占める割合は東映や松竹の割合に比べると低い。

東映					
年度配収上位5作品名	カラー／モノクロ	ジャンル	監督	主演	配収(千円)
1953年度					
べらんめえ獅子	モノクロ	京都時代劇	渡辺邦男	市川右太衛門	122,491
多羅尾伴内 曲馬団の魔王	モノクロ	京都現代劇	佐々木康	片岡千恵蔵	100,134
日輪	カラー	京都時代劇	渡辺邦男	片岡千恵蔵	88,115
女問者秘聞 赤穂浪士	モノクロ	京都時代劇	佐々木康	片岡千恵蔵	78,527
多羅尾伴内 片目の魔王	モノクロ	京都現代劇	佐々木康	片岡千恵蔵	78,179
1954年度					
紅孔雀	モノクロ	京都時代劇	河野寿一	中村錦之助	241,823
多羅尾伴内 隼の魔王	モノクロ	東京現代劇	松田定次	片岡千恵蔵	120,810
旗本退屈男 謎の怪人屋敷	モノクロ	京都時代劇	渡辺邦男	市川右太衛門	111,000
里見八犬伝	モノクロ	京都時代劇	河野寿一	東千代之介	108,729
青竜街の狼	モノクロ	東京現代劇	松田定次	片岡千恵蔵	107,100
1955年度					
赤穂浪士	カラー	京都時代劇	松田定次	片岡千恵蔵	313,054
多羅尾伴内 戦慄の七仮面	モノクロ	東京現代劇	松田定次	片岡千恵蔵	116,827
旗本退屈男 謎の決闘状	モノクロ	京都時代劇	佐々木康	市川右太衛門	111,038
多羅尾伴内 復讐の七仮面	モノクロ	東京現代劇	松田定次	片岡千恵蔵	98,730
旗本退屈男 謎の伏魔殿	モノクロ	京都時代劇	佐々木康	市川右太衛門	94,280
1956年度					
任侠清水港	カラー	京都時代劇	松田定次	片岡千恵蔵	353,188
恐怖の空中殺人	モノクロ	東京現代劇	小林恒夫	片岡千恵蔵	192,912
曾我兄弟 富士の夜襲	カラー	京都時代劇	佐々木康	中村錦之助	190,098
旗本退屈男 謎の幽霊船	カラー	京都時代劇	松田定次	市川右太衛門	186,782
米	カラー	東京現代劇	今井正	江原真二郎	175,109
1957年度					
水戸黄門	カラー	京都時代劇	佐々木康	月形龍之介	353,335
仁俠東海道	カラー	京都時代劇	松田定次	片岡千恵蔵	341,777
鳳城の花嫁	カラー	京都時代劇	松田定次	大友柳太朗	214,733
大菩薩峠	カラー	京都時代劇	内田吐夢	片岡千恵蔵	212,807
丹下左膳	カラー	京都時代劇	松田定次	大友柳太朗	204,337
1958年度					
忠臣蔵	カラー	京都時代劇	松田定次	片岡千恵蔵	361,219
旗本退屈男	カラー	京都時代劇	松田定次	市川右太衛門	291,459
新選組	カラー	京都時代劇	松田定次	片岡千恵蔵	196,555
新吾十番勝負	カラー	京都時代劇	松田定次	大川橋蔵	190,200
大江戸七人衆	カラー	京都時代劇	松田定次	市川右太衛門	186,624

太字：甲斐荘担当作品

表4 東映年度別配給収入上位5作品（『映画年鑑』時事通信社より）

松竹					
年度配収上位5作品名	カラー／モノクロ	ジャンル	監督	主演	配収(千円)
1953年度					
君の名は・第2部	モノクロ	東京現代劇	大庭秀雄	岸恵子	300,018
君の名は・第1部	モノクロ	東京現代劇	大庭秀雄	岸恵子	250,470
花の生涯	モノクロ	京都時代劇	大曾根辰夫	松本幸四郎	139,902
東京物語	モノクロ	東京現代劇	小津安二郎	笠智衆	131,648
家族会議	モノクロ	東京現代劇	中村登	高橋貞二	125,542
1954年度					
君の名は・第3部	モノクロ	東京現代劇	大庭秀雄	岸恵子	330,152
忠臣蔵 花の巻・雪の巻	モノクロ	京都時代劇	大曾根辰夫	松本幸四郎	290,643
二十四の瞳	モノクロ	東京現代劇	木下恵介	原節子	232,870
哀愁日記	モノクロ	東京現代劇	田島恒男	草笛光子	146,414
陽は沈まず	モノクロ	東京現代劇	中村登	柳永二郎	134,248
1955年度					
修禅寺物語	カラー	東京現代劇	中村登	高橋貞二	183,682
亡命記	モノクロ	東京現代劇	野村芳太郎	佐田啓二	172,276
二等兵物語	モノクロ	京都現代劇	福田晴一	伴淳三郎	146,518
角帽三羽鳥	カラー	東京現代劇	野村芳太郎	高橋貞二	136,787
遠い雲	モノクロ	東京現代劇	木下恵介	高峰秀子	134,200
1956年度					
歌う弥次喜多 黄金道中	カラー	京都時代劇	大曾根辰保	高田浩吉	174,560
忘れえぬ慕情	カラー	東京現代劇	イヴ・シャンピ	岸恵子	153,830
りんどう鴉	カラー	京都時代劇	福田晴一	高田浩吉	140,000
白い魔魚	カラー	東京現代劇	中村登	有馬稲子	133,121
二等兵物語 第3部	モノクロ	京都現代劇	福田晴一	伴淳三郎	124,107
1957年度					
喜びも悲しみも幾歳月	カラー	東京現代劇	木下恵介	佐田啓二	391,089
大忠臣蔵	カラー	京都時代劇	大曾根辰保	市川猿之助	268,749
挽歌	カラー	東京現代劇	五所平之助	久我美子	232,434
抱かれた花嫁	カラー	東京現代劇	番匠義彰	望月優子	202,874
集金旅行	カラー	東京現代劇	中村登	佐田啓二	158,867
1958年度					
人間の条件	モノクロ	東京現代劇	小林正樹	仲代達矢	304,044
彼岸花	カラー	東京現代劇	小津安二郎	佐分利信	294,220
檀山節考	カラー	東京現代劇	木下恵介	田中絹代	254,664
風花	カラー	東京現代劇	木下恵介	岸恵子	205,155
この天の虹	カラー	東京現代劇	木下恵介	高橋貞二	176,673

太字：甲斐荘担当作品

表5 松竹年度別配給収入上位5作品（『映画年鑑』時事通信社より）

大映					
年度配収上位5作品名	カラー／モノクロ	ジャンル	監督	主演	配収(千円)
1953年度					
地獄門	カラー	京都時代劇	衣笠貞之助	長谷川一夫	151,790
金色夜叉	カラー	東京現代劇	島耕二	山本富士子	146,685
花の三度笠	モノクロ	京都時代劇	田坂勝彦	長谷川一夫	123,284
花の講道館	モノクロ	京都現代劇	森一生	長谷川一夫	96,328
番町皿屋敷 お菊と播磨	モノクロ	京都時代劇	伊藤大輔	長谷川一夫	90,560
1954年度					
月よりの使者	カラー	東京現代劇	田中重雄	菅原謙二	164,912
千姫	カラー	京都時代劇	木村恵吾	京マチ子	145,470
螢の光	カラー	東京現代劇	森一生	若尾文子	137,195
伊太郎獅子	モノクロ	京都時代劇	田坂勝彦	長谷川一夫	118,447
愛染かつら	モノクロ	東京現代劇	木村恵吾	京マチ子	104,412
1955年度					
新・平家物語	カラー	京都時代劇	溝口健二	市川雷蔵	173,033
楊貴妃	カラー		溝口健二	京マチ子	157,808
義仲をめぐる三人の女	カラー	京都時代劇	衣笠貞之助	長谷川一夫	144,949
珠はくだけず	カラー	東京現代劇	田中重雄	三益愛子	140,566
薔薇いくたびか	モノクロ	東京現代劇	衣笠貞之助	若尾文子	138,692
1956年度					
銭形平次捕物控 まだら蛇	カラー	京都時代劇	加戸敏	長谷川一夫	186,757
月形半平太 花の巻 嵐の巻	カラー	京都時代劇	衣笠貞之助	長谷川一夫	185,427
太平洋戦争の記録 日本かく戦えり	モノクロ	東京現代劇			161,601
夜の河	カラー	東京現代劇	吉村公三郎	山本富士子	160,875
銭形平次捕物控 人肌蜘蛛	カラー	京都時代劇	森一生	長谷川一夫	156,653
1957年度					
鳴門秘帖	カラー	京都時代劇	衣笠貞之助	長谷川一夫	161,084
夜の蝶	カラー	東京現代劇	吉村公三郎	京マチ子	146,417
銭形平次捕物控 八人の花嫁	カラー	京都時代劇	田坂勝彦	長谷川一夫	135,569
銭形平次捕物控 女狐屋敷	カラー	京都時代劇	加戸敏	長谷川一夫	132,937
有楽町で逢いましょう	カラー	東京現代劇	島耕二	京マチ子	131,584
1958年度					
忠臣蔵	カラー	京都時代劇	渡辺邦男	長谷川一夫	410,336
日蓮と蒙古大襲来	カラー	京都時代劇	渡辺邦男	長谷川一夫	305,118
人肌孔雀	カラー	京都時代劇	森一生	山本富士子	121,914
情炎	カラー	東京現代劇	衣笠貞之助	山本富士子	119,187
人肌牡丹	カラー	京都時代劇	森一生	山本富士子	117,916

太字：甲斐荘担当作品

表6 大映年度別配給収入上位5作品（『映画年鑑』時事通信社より）

年		東映	松竹	大映
1954	正月	旗本退屈男 どくろ屋敷	お役者変化	怪猫有馬御殿
	盆	旗本退屈男 謎の百万両	浩吉ひばりのびっくり五十三次	怪猫岡崎騒動(7月)
1955	正月	旗本退屈男 謎の怪人屋敷	忠臣蔵(10月)	鉄火奉行
	盆	旗本退屈男 謎の伏魔殿	八州遊侠傳 白鷺三味線	怪猫逢魔が辻
1956	正月	旗本退屈男 謎の決闘状	お役者小僧 江戸千両幟	銭形平次捕物控 どくろ駕籠
	正月	赤穂浪士	伝七捕物帖 花嫁小判	義仲をめぐる三人の女
1957	正月	旗本退屈男 謎の幽霊船(7月)	歌う弥次喜多 黄金道中	銭形平次捕物控 死美人風呂(2月)
	盆	任侠清水港	伝七捕物帖 女狐駕籠(6月)	銭形平次捕物控 人肌蜘蛛
1958	正月	旗本退屈男 謎の紅蓮塔	伝七捕物帖 美女蝙蝠	銭形平次捕物控 まだら蛇
	盆	水戸黄門	大忠臣蔵	銭形平次捕物控 女狐屋敷
1959	正月	旗本退屈男 謎の蛇姫屋敷	伝七捕物帖 髑髏狂女	銭形平次捕物控 八人の花嫁
	正月	任侠東海道		遊侠五人男
1960	盆	旗本退屈男	太閤記	忠臣蔵(4月)
	盆			銭形平次捕物控 鬼火灯笼
1961	正月	旗本退屈男 謎の南蛮太鼓	大暴れ東海道	銭形平次捕物控 雪女の足跡
	正月	忠臣蔵 櫻花の巻 菊花の巻	伝七捕物帖 女肌地獄	
1962	盆	旗本退屈男 謎の大文字(6月)	伝七捕物帖 幽霊飛脚	四谷怪談(7月)
	盆	血斗水滸伝 怒涛の対決		
1963	正月	任侠中仙道	剣侠五人男	二人の武蔵
	正月	旗本退屈男 謎の幽霊島		
1964	盆	水戸黄門	敵は本能寺にあり(9月)	安珍と清姫
	正月	若き日の次郎長 東海の顔役	天下御免(12月)	大菩薩峠
1965	正月	赤穂浪士(3月)		
	盆	旗本退屈男 謎の七色御殿		鯉名の銀平
1966	正月	若き日の次郎長東海道のつむじ風		銭形平次捕物控 美人鮫(11月)
	正月	旗本退屈男 謎の珊瑚屋敷		
1967	盆	勢揃い関八州	義士始末記	長脇差忠臣蔵

太字：甲斐荘担当作品

表7 東映・松竹・大映 正月・盆公開作品

3. 日本映画界における甲斐荘楠音の功績

3-1. 甲斐荘楠音の衣裳考証とその他の考証家との比較

甲斐荘楠音は太秦の時代劇にはじめは松竹にて美術から携わり、そこから時代考証、風俗考証という職名で最後に衣裳考証に落ち着き数多くの作品に衣裳考証としてかかわった。甲斐荘が考証家として担当した映画は2021年8月30日現在で229本あった。他にも強く可能性があると思われる作品が数本ありその数はまだまだ増えると考えられる。

甲斐荘の考証表記の内訳は、衣裳考証と表記されているものが145本、おそらく衣裳考証と思われるものが8本で合わせて153本、時代考証が59本、風俗考証11本とおそらく風俗考証と思われるもの1本と合わせて風俗考証12本、美術考証2本とおそらく美術考証と思われるもの1本と合わせて美術考証3本、美術が1本、考証が1本である。1955年以降はほぼ衣裳考証のみになる。西岡や井川の話からも美術担当と話し合うことはあってもそれは衣裳考証として衣裳との関係においての美術への提案であった★49。溝口の『元禄忠臣蔵』では風俗考証と表記されているが、この作品では衣裳考証はおらず、甲斐荘の主たる担当は衣裳と小道具の考証であった。同じく溝口の『雨月物語』も風俗考証とあるが、これも主たる考証は衣裳であり、その結果がアカデミー賞衣裳部門ノミネートである。衣裳デザインを担当した『旗本退屈男』でも、その初期には時代考証と表記されており、後年それらの作品では衣裳考証と表記されていることから、時代考証の場合でも襖絵や掛軸、屏風など装飾物、小道具などへの考証もあったが実質は衣裳考証が中心であり、映画界での甲斐荘は衣裳考証家として監督や主役俳優から認められていたと思われる。

★49——井川(1997)p.258。

その他の映画考証家としては、吉川観方は甲斐荘と同じ日本画家出身で松竹の歌舞伎や芝居の舞台考証を行い風俗考証家として活躍した★50。吉川が映画で考証を担当した作品としては、1924年松竹下加茂作品枝正義郎監督『権八と小紫』考証、1926年松竹下加茂作品衣笠貞之助監督『大阪夏の陣』衣裳考証、1932年松竹下加茂作品衣笠監督『忠臣蔵 前篇 赤穂京の巻』『忠臣蔵 後篇 江戸の巻』舞台意匠、1938年松竹京都作品衣笠監督『黒田誠忠録』風俗考証、1956年大映京都衣裳監督『月形半平太 花の巻 嵐の巻』時代考証(衣裳考証は上野芳生)、1957年大映京都衣裳監督『源氏物語 浮舟』時代考証などがわかっており、吉川が考証を行ったのはほぼ衣笠監督作品のみである。また、吉川は衣裳収集家としても有名だが映画での衣裳考証クレジットは衣笠貞之助監督の『大阪夏の陣』1作品のみである。

★50——奈良県立美術館(2019)p.111。

挿絵画家として有名な岩田専太郎も美術考証、衣裳考証や時代考証を行っている。岩田は1937年東京P.C.L.山中貞雄監督『人情紙風船』での美術考証から始まり、東京の現代劇での衣裳考証、美術考証などで活躍した。京都では1939年東宝萩原遼監督『その前夜』で美術考証、1955年東映内田吐夢監督『血槍富士』で衣裳考証、甲斐荘が衣裳考証を担当した1956年松田定次監督『赤穂浪士 天の巻 地の巻』で色彩考証などが確認できる。

第一映画社や新興キネマで映画監督だった寺門静吉は、1939年松竹溝口監督『残菊物語』、1940年『浪花女』で時代考証を担当している。甲斐荘が新藤とのインタビューで語った「残菊物語の影武者」は内藤ではなく寺門の「影武者」だったかもしれない。寺門はそのほか、1940年新興キネマ京都牛原虚彦監督依田義

賢脚本溝口健二構成『晴小袖』で舞台考証として名前が挙がっている。

洋画家で日本色彩学研究所理事長であった和田三造は、1954年第7回カンヌ国際映画祭グランプリ受賞大映作品『地獄門』で色彩指導を担当し、同年の第27回アカデミー賞で色彩衣裳デザイン賞を受賞した。クレジットには衣裳考証の名前は入っておらず衣裳調製松坂屋となっている。衣裳考証として和田三造の名前が入っている作品は日本映画データベースおよび日本映画情報システムには見当たらない。色彩考証として東映『曾我兄弟 富士の夜襲』『任侠清水港』『隼人族の反乱』があるが、これらの作品での衣裳考証は甲斐荘が担当している。

あとは溝口健二が甲斐荘と離れた後衣裳考証として採用した上野芳生である。上野は衣裳考証として大映を中心に東宝などの巨匠作品に少なくとも31作品以上担当しており、甲斐荘に続く衣裳考証家である。松竹映画、東映映画では衣裳考証は行っていない。甲斐荘との違いについては先述の映画評論家山口猛が述べているが、私が見るところ甲斐荘は考証知識を前提に自らの感性に従って自由に衣裳をデザインしたが上野は考証により忠実にデザインしたと考える。それは旗本退屈男の衣裳に現れているように、元禄時代のバサラ旗本早乙女主水之介の衣裳は男性の着物としてそのデザインは考証を飛び越えて自由である（写真1・2・3・4）。旗本退屈男も東映初期は古典柄が多いが、徐々に琳派や浮世絵の風景画、西洋のペイズリー柄などをデザインに取り入れ、時代に忠実な考証よりも作家性にあふれた大胆なデザインになっている★51。

甲斐荘は東映のオールスター次郎長映画、上野は大映のオールスター次郎長映画で衣裳考証を担当している。その違いを次郎長一家の殴り込みの衣裳で比較すると、甲斐荘は白装束に竹の柄が入ったそろいの衣裳（写真8）、上野は黒装束のそろいであり、実際に殴り込みに行く場合は目立たない黒系またはグレー系の衣裳になると思われるが、甲斐荘は白を使う。ほかの東映次郎長映画の殴り込み衣裳は個人個人バラバラで揃いの衣裳はなかった★52がその方が実際の姿に近いと思われる。



写真8 『任侠清水港』東映(1957) 撮影：山口記弘

以上のことから、太秦時代劇の衣裳考証家として他の衣裳考証家と比べても甲斐荘は松竹、東映、大映の撮影所で圧倒的多数の衣裳考証を行った功績者であり、また衣裳デザイナー、衣裳製作プロデューサーとして日本の時代劇衣裳部門の第

★51——2019年羽田空港で展示した旗本退屈男衣裳は東映退屈男初期から中期のもので、国立歴史民俗博物館が所蔵する江戸時代の前期から後期にかけての着物「野村コレクション」の着物デザインを参考にして作られたと思われる。

★52——甲斐荘以外の東映次郎長映画 『若き日の次郎長 東海の顔役』(1960)、『東海一の若親分』(1961)、『次郎長と小天狗 殴り込み甲州路』(1962)、『次郎長血笑記 秋葉の対決』(1960)、『次郎長血笑記 富士見峠の対決 殴り込み荒神山』(1960)、『次郎長三国志』(1963)他シリーズ全4作品。

一人者であったことがわかった。またその後現在に至るまでこれほどの数と質の映画衣裳にかかわった人物は現れていない。

3-2. 甲斐荘楠音担当代表的作品の興行実績

表8は、1950年から1964年まで甲斐荘が担当した時代劇で配取10位以内に入った作品とその配取を年度ごとにまとめたものである。カラー映画が本格化した1956年には第1位を含む東映3作品、松竹1作品計4作品のカラー映画が入っている。また、15年間で東映オールスター映画の3作品が第1位の興行成績を取めた。この表から甲斐荘がいかに各社の大作、力を入れた作品に起用されたかがわかる。ここから甲斐荘の衣裳考証能力が各社および監督に認められていたからであると推察できる。

甲斐荘が担当した229作品の内、配取上位10位に入った17作品だけの総額で45億円、配取を興収の半分と仮定すると単純計算で興収90億円にのぼる。1952年の平均入場料単価62円を2019年の平均入場料単価1340円に換算するとおよそ1950億円にもなる。

上位10位に入らない作品でも『旗本退屈男』や『伝七捕物帳』などの大ヒットシリーズもあり、229作品の全配取そしてその元である興行収入を現在の物価に換算すると莫大なものになると考えられる。日本の映画界において、大手映画会社を股にかけ担当した作品の数々がこれほど大きな興行成績を残した映画人はそうそういないしこれからも出てこないと思われる。

興行成績が大きいということは観客動員数も多いということで、甲斐荘の名前は意識していないが甲斐荘が製作した衣裳は、市川右太衛門や高田幸吉などスターの魅力を引き立てる衣裳として多くの人々の目に触れスターへの喝采を

年	順位	作品名	会社	監督	主演	配取(万円)
1950	10	おぼろ駕籠	松竹	伊藤大輔	阪東妻三郎	5,335
1951	2	大江戸五人男	松竹	伊藤大輔	阪東妻三郎	12,569
1952						
1953	6	花の生涯 彦根篇 江戸篇	松竹	大曾根辰夫	松本幸四郎	13,990
1954	2	忠臣蔵 花の巻・雪の巻	松竹	大曾根辰夫	松本幸四郎	29,064
1955	1	赤穂浪士 天の巻 地の巻	東映	松田定次	片岡千恵蔵	31,305
1956	1	任侠清水港	東映	松田定次	片岡千恵蔵	35,319
	4	曾我兄弟 富士の夜襲	東映	松田定次	佐々木康	19,009
	5	旗本退屈男 謎の幽霊船	東映	松田定次	市川右太衛門	18,678
	10	歌う弥次喜多 黄金道中	松竹	大曾根辰保	高田浩吉	17,456
1957	3	水戸黄門	東映	佐々木康	月形龍之介	35,334
	5	任侠東海道	東映	松田定次	片岡千恵蔵	34,178
	6	大忠臣蔵	松竹	大曾根辰保	市川猿之助	26,875
1958	4	忠臣蔵 櫻花の巻・菊花の巻	東映	松田定次	片岡千恵蔵	36,122
1959	1	任侠中仙道	東映	松田定次	片岡千恵蔵	35,091
1960						
1961	2	赤穂浪士	東映	松田定次	片岡千恵蔵	43,500
1962	3	勢揃い 東海道	東映	松田定次	片岡千恵蔵	35,212
1963						
1964	9	徳川家康	東映	伊藤大輔	中村錦之助	21,500
						450,537

表8 年度別映画配給収入上位10位に入った甲斐荘担当作品（『映画年鑑』時事通信社より）

引き出すことに繋がったと考えられる★53。東映は『旗本退屈男』シリーズでのカラー初作品『旗本退屈男 謎の幽霊船』(1956)から宣伝文句に豪華衣裳を謳い、『旗本退屈男』(1958)では総衣裳費700万円と具体的数字を入れてPRするとともに日本橋白木屋で衣裳展を開催した。その後も退屈男衣裳の豪華さは最後の作品『旗本退屈男 謎の竜神岬』までPR素材として使われた。このことからカラー時代を迎え、豪華衣裳がスター人気、そして映画人気のある部分を支えたと言える。

3-3. 太秦時代劇における甲斐荘楠音の仕事と映画人からの評価

甲斐荘楠音は日本映画界で、時代考証、風俗考証、衣裳考証と様々な点に関する考証担当者として活躍した。日本映画界を代表する美術デザイナー東映井川徳道と大映西岡善信、二人の証言によれば、井川も西岡も甲斐荘から時代考証を学び、それぞれの担当作品の美術に活かした。

東映美術デザイナーの井川徳道は甲斐荘について、芸事に精通し、衣裳と風俗に詳しい貴重な存在であり、予算も含めて映画的な処理方法で規則にのっとりながらもそれにとらわれずデフォルメを交え役者が映えるような衣裳を作ったこと★54、甲斐荘が特別な専門家でも特別な監督にしか使われない監督付きのスタッフであり、うるさい大監督からも好かれていたことを語っている★55。また、井川が『鳳城の花嫁』で初めて甲斐荘と仕事をした時、甲斐荘は衣裳部にある脇役の衣裳に目を通してから、それに負けない主役の衣裳デザインを描き、井川はその衣裳を見てから全体の美術を考えた甲斐荘の仕事と美術のかかわりについて述べている★56。『鳳城の花嫁』の脇役の衣裳には『旗本退屈男』シリーズでも使われていたデザインが使われている。

井川の証言は、当時の関係者がいない現在では裏方甲斐荘が行っていた衣裳考証の仕事語る数少ない貴重なものであり甲斐荘が大監督や右太衛門からの厚い信頼を得ていたことがよくわかる。

大映、映像京都で美術監督、プロデューサーとして活躍した西岡善信も甲斐荘に時代考証を教えられ、大映美術の重厚感、スケール、見栄えがするという定評に甲斐荘が大きく貢献しており、大映黄金時代の中心にいたこと、そして映画関係者が映画に権威をつけるために甲斐荘の力を借りたかったこと、風俗考証とは衣裳や小物を考証することで甲斐荘には人物、ことに舞妓さんあたりの装飾のことを聞いて助けてもらったこと、など証言している★57。

以上に記した井川、西岡の証言から、東映や大映での仕事ぶりや大監督たちの甲斐荘の知識、センス、技術への信頼が見えてくる。逆に彼と仕事ができるということが大監督であること、その映画が大作であることの判断基準であると言えるかもしれない。甲斐荘は太秦時代劇大作の衣裳における質の向上、オスカーノミネートや巨匠たちの仕事に貢献した甲斐荘が担当したことによる格の向上に欠かせない存在であった。

それまでの映画衣裳担当者は映画スタッフの中でも下位に位置しており、テロップに出ない場合も多く、衣裳の決定も撮影所所属の衣裳担当者と監督が話し合い選んでいた。そこに、衣笠貞之助監督が考証家吉川観方を使い、その後、溝口健二監督が日本画家甲斐荘楠音を見出し、風俗考証として起用して映画衣裳の大切さを世に知らしめた。そしてチャンバラ時代劇が解禁され、映画が戦前以上に盛んになってきたまさにその時、『地獄門』、『雨月物語』と2年続けてアカデミー賞の衣裳部門で時代劇衣裳が取り上げられ、映画衣裳と世界の権威に認めら

★53——市川(1958)において甲斐荘の名前を具体的に挙げては記述していない(p.15)。

★54——「着物の配色や図柄の配置が大変お上手」「画面で役者さんが映える」「衣裳をだいぶデフォルメされていました。きちんとした規則に則って、あとは自在に映画にふさわしい形を作っておられた」。「絵巻物からわかることが、風俗考証です。衣裳と庶民の生活史」「甲斐荘先生はお芝居が好きで芸事に精通されていた」「衣裳と風俗にお詳しく、信頼できる衣裳考証家、時代劇には貴重な方でしたね」「歌舞伎や能や狂言は時代考証が正確ではなくて、…でもそういう芝居を愉しまれている甲斐荘さんも、映画で『曾我兄弟』の時代考証をされる場合には鎌倉期に遡りますよ」「甲斐荘先生は予算も含めて映画的な処理方法を知っておられました」(井川1997, p.258)。

★55——「衣裳考証家とか建築考証家というのは特殊スタッフです。甲斐荘先生も特別なんです。だから特別な監督にしか使われない」「甲斐荘さんはあくまで監督付きのスタッフです」「映画監督は信用するスタッフと組みます」(井川1997, p.260)。

★56——「衣裳部にたくさんある脇役の衣裳に、まずちゃんと目を通してから、それに負けないような、主役として勝つようなデザインを自分なりに描かれて、主役の衣裳をと決めてこられた。…その衣裳を見てから、僕らが全体の美術を考えました」「時代考証が身につけているから、注文されれば注文通りにバツと描ける。…監督が安心できるとはこういうことです」「茶室の軸装についても、よくお訊きしたものでした。」「右太衛門さんが出るときはちょっと見に来られました」「甲斐荘さんをお願いしたいと思ってる監督はずいぶんいたようで、田坂具隆さんや大映の伊藤大輔さんといった、たいへんおうるさい監督に好かれておられたようです」(井川1997, p.258)。

★57——「ぼくは最初、美術デザイナーでした。そして甲斐荘さんに教わって時代考証をやっていました。そのうち美術監督システムになって、美術監督が衣裳から、鬘から、全部を担当するようになったのです。」「大映の美術には重厚感とスケールがあって、見栄えがするという定評がありました。甲斐荘さんはそれに大きく貢献されました。」「大映の黄金時代、その中心にいたのが甲斐荘さんでした。」「甲斐荘さんの力を、映画関係者は借りたかったんです。どうしてかっていうと、映画に権威をつけるためですよ。」「風俗考証でクレジットに名前が出るのは、甲斐荘さんと江馬務さんぐらいでしょうか。風俗考証は、衣裳や小物を交渉することです。これは風俗を描いておられる画家さんをお願いします。…甲斐荘さんなら人物。ことに舞妓さんあたり」「装飾のことは甲斐荘さんに聞けば助けてもらえました」(西岡1997, p.267)。

れた衣裳専門家に世間の注目が集まり、その大事さが人々により広く認識された。それによって映画興行で衣裳の持つ価値が増々上がった結果、映画衣裳とその専門家がその後の大衆娯楽大作映画に格を付け、スターの魅力を上げる人物として活用されていった。その流れはカラー化を迎えてより顕著になり、松竹、東映で甲斐荘、大映で上野が衣裳の権威として数多くの監督から重宝されたと考えられる。

その衣裳考証家の中心である甲斐荘は映画での映画衣裳の地位を高め、芸術映画だけでなく数多くの大衆娯楽映画の衣裳を手掛けることでそれら大衆娯楽作品の格を上げ主役の魅力を引き立て太秦時代劇映画ブームに貢献した。それとともに仕事を通じて井川、西岡といったその後の太秦の映画美術を支える中心スタッフたちの育成にも貢献した。

また、生涯にわたり芝居と女性だけでなく男性も愛してきた甲斐荘にとっても、自分がデザインして作った衣裳を美男の役者たちが着用し、華麗な姿をスクリーンで見せることに無上の喜びを感じていたと思われる。甲斐荘が担当した作品のほとんどは美男子が主演であり、長年にわたり映画界に籍を置き、お金が発生しない作品でも手伝った理由のひとつがそこにあるとも考える。

3-4. 日本映画界における甲斐荘楠音の功績

1951年の時代劇解禁以降、時代劇は日本映画の中でブームとなり、戦後の復興を娯楽の面で支える原動力のひとつとなった。その後、時代劇映画ブームは1960年くらいまで10年間ほど続き、その中心は京都太秦の東映、大映、松竹、三つの撮影所であり、様々な時代劇を生み出し競い合うことで切磋琢磨した。

甲斐荘楠音は、その三つの撮影所を股に掛けて主に衣裳考証で活動し日本映画全盛に貢献した。溝口健二に才能を見出され、溝口と甲斐荘コンビの公的には最後の作品である大映「雨月物語」はヴェネチア国際映画祭で銀獅子賞を受賞、甲斐荘は担当した衣裳の仕事で米国アカデミー賞の衣裳部門にノミネートされ、日本の映画衣裳の世界的評価を高めた。その特異な才能は時代劇の大監督たちから高い信頼を得て、映画のカラー化を迎えた太秦で、ますます多くの作品に起用された。主に松竹、東映の総天然色娯楽時代劇大作、娯楽時代劇シリーズでその才能を発揮し、大衆娯楽時代劇ブームの一翼を担った。それらの作品は大きな人気を呼び、興行的にも大成功を収めた。彼のおいたちで培われた歌舞伎や芝居、日本画の素養、独特の美的感覚と知識は世界に通ずる確かなものであり、全盛期の太秦大衆娯楽時代劇の衣裳考証、デザインの世界でその才能が大きく花開いたのだった。一時代を築いた太秦の時代劇映画において、衣裳考証という役割でブームに貢献した彼はまさに日本映画界における映画衣裳デザイナーであり衣裳プロデューサーの第一人者であった。

彼が担当した『旗本退屈男』シリーズに代表されるように、衣裳を通じ着物そのものと着物が動くことで生み出される動的美しさによって、人々にカラー映画の魅力を知らしめた。着物制作の技術に優れた当時の京都で大枚をかけて作られた映画衣裳は戦後を代表するかけがえのない美術工芸作品であり、日本画家甲斐荘楠音の才能を駆使した芸術品である。絵画や彫刻と違い映画は空間軸のみならず時間軸を持っており、美しいと感じさせる物の姿だけでなくそれが生み出す美しい動きをも表現できる。映画は日本の美の象徴でもある着物が華麗に動く姿を人々に映しだすがそれはまさに動く着物とそれを着る魅力的な人物が作り出すパフォーマンスであり、動く写真であるカラー映画はその着物の持つ美を多面的に

日本全国多くの人々に生き生きと見せつけた。

大衆娯楽として皆に愛された映画のために、撮影所の枠にとらわれず衣裳考証という役割も越えてスターが映える美しい着物を製作し、人生の後半生をかけて映画というマス媒体で着物パフォーマンスの美に貢献した映画人が甲斐荘楠音であった。

3-5. 今回の研究についてのまとめ

甲斐荘が活動していた当時は映画会社各社が激しく競い合っており撮影所間の交流も少なく、甲斐荘がそれぞれの撮影所でどのような仕事をしていたかなどの具体的情報はお互いに伝わりにくかったため、甲斐荘の映画界での仕事の全体像は本人にしか把握できていなかったと思われる。そして日本映画界が斜陽を迎え時代劇がスクリーンから消えるとともに衣裳考証家甲斐荘楠音の名前も忘れ去られていった。また、映画研究者、美学研究者の興味も甲斐荘の大衆作品には向かなかったためその後も甲斐荘が行った日本映画界での仕事の全体像は示されることなく今日に至った。

今回、日本画家甲斐荘楠音が担当した映画作品を拾い出し、それらを年代別、会社別、監督別、主演俳優別に分類しそこから読み取れる甲斐荘の映画界での仕事を考察した。

まず年代別から甲斐荘が溝口と仕事をしなくなった後に太秦撮影所を股にかけて担当した作品数が増えることを発見し、それら作品の多くが松竹、東映が力を入れた盆正月時代劇作品、お金をかけた大作、人気作であることを分析した。特に東映が映画のカラー化において甲斐荘を活用した理由を考察し、また松竹撮影所での時代劇衣裳部門の要であったことを調査発見できた。そして名匠伊藤大輔や溝口健二以上に松田定次、大曾根辰夫、佐々木康、福田晴一などの大衆娯楽作品で数多く起用された事実を解明した。また甲斐荘担当作品は市川右太衛門、高田浩吉主演作が圧倒的に多いことを分析し、その理由を考察した。

最後に日本映画美術界を代表する重鎮井川と西岡2人の証言をふまえ、これまで研究されていなかった溝口作品以後の甲斐荘が日本映画の時代劇衣裳部門において果たした役割と功績を他の衣裳考証家との比較や興行成績などから具体的に解明した。

今回は映画史研究であり、引き続き甲斐荘が担当した作品の調査や発見した作品で作られた衣裳を探し出す作業、衣裳制作者の調査などまだまだこれから調べなければならないことも多い。また、甲斐荘担当作品の品や美についての先人の証言は記述したが、甲斐荘がデザインし製作した数々の衣裳についての美学的な分析や具体的考察はこれからの課題である。それら美学的研究に加えて衣裳デザインの由来研究、実際に制作した職人などもこれからの調査研究課題として考えられ、今回の基礎資料や今後発表予定である衣裳のデザインデータを基にその分野の専門家によるさらなる研究を期待する。

謝辞

今回、松竹大谷図書館・武藤氏を始めとする皆様のご協力により、松竹京都作品の審査台本を詳しく調べることで、松竹での甲斐荘の役割と重要性を認識することができました。厚く御礼を申し上げます。また、ご高齢にかかわらず、東映京都撮影所衣裳倉庫でのインタビューにお答えいただきました、東映OB岩途保氏、故矢田精治氏、石原昭氏、松竹撮影所でのインタビューをご調整いただいた松竹撮影所永島聡氏、井汲泰之氏、お答えいただいた松竹衣裳OB塚本豊氏に感謝いたします。

参考文献

- 井川徳道(1997)「京都画壇の異端児・甲斐荘楠音」『FB』10、pp.256-265、行路社。
- 池田祐子(1997a)「映画界の甲斐荘楠音」『京都国立近代美術館「甲斐荘楠音 大正日本画の異才ーいぎづく情念展」図録』pp.156-159、日本経済新聞社。
- 池田祐子(1997b)「エラン・ヴィタール」『FB』10、pp.252-255、行路社。
- 市川右太衛門(1958)「退屈男二十三本の思い出」『時代映画』(8)、pp.12-16、時代映画社。
- 市川右太衛門「私の履歴書⑩ 市川右太衛門」1984年6月16日朝刊、13版、24面、日本経済新聞社。
- 市川右太衛門「私の履歴書⑫ 市川右太衛門」1984年6月20日朝刊、13版、32面、日本経済新聞社
- 市川右太衛門(1986)『主水之介行状記ー役者人生まっしぐらー』みみずくぶれす。
- 市川右太衛門(1992)『旗本退屈男まかり通る』東京新聞出版局。
- 市川右太衛門(1994)「市川右太衛門が語る旗本退屈男」『浪漫工房』6、pp.7-19、創作工房。
- 小川佐和子(2020)「絵師と映画監督 時代考証に見る甲斐荘楠音と溝口健二の通底性」『映画産業史の転換点ー経営・継承・メディア戦略』pp.189-214、森話社。
- 栗田勇(1984)「画家甲斐荘楠音 穢い絵ではいかなのか」『芸術新潮』35(8)、pp.70-94、新潮社。
- 栗田勇(1987)「映画界のカイさん」『女人讃歌 ー甲斐荘楠音の生涯ー』pp.148-167、新潮社。
- 斎藤次男(2015)『昭和映画屋渡世ー坊ちゃんプロデューサー奮闘記ー』ごまめ書房。
- 佐相勉・西田宣善(1997)『映画読本 溝口健二 情念の果ての女たちよ 幻夢へのリアリズム』フィルムアート社。
- 時事通信(1954~1959)『映画年鑑』時事通信社。
- 島田康寛編(1997)「甲斐荘楠音年譜」『京都国立近代美術館「甲斐荘楠音 大正日本画の異才ーいぎづく情念展」図録』p.146、日本経済新聞社。
- 島田康寛監修(2009)『甲斐荘楠音画集 ロマンチック・エロチスト』求龍堂。
- 松竹(1940)「松竹映画ショートストーリー紹介」『オール松竹』19(5)p.71、映画世界社。
- 松竹(1964)『松竹七十年史』松竹株式会社。
- 新藤兼人(1975)『ある映画監督の生涯ー溝口健二の記録ー』映人社。
- 田中純一郎(1976)『日本映画発達史IV』中公文庫。
- 東映(1992)『クロニクル東映I・II・III』東映株式会社。
- 東京国立近代美術館(2021)『東京国立近代美術館「あやしい絵展」図録』毎日新聞社。
- 奈良県立美術館(2019)『奈良県立美術館「吉川観方ー日本文化へのまなざし展」図録』奈良県立美術館。
- 西岡善信(1997)「甲斐荘楠音と撮影所」『FB』10、pp.266-276、行路社。
- 星野圭三・星野万美子(2019)『国画創作協会の画家たちーII 異色の美人画家・甲斐荘楠音と三人の夭折画家』星野画廊。
- 山口猛(1998)「溝口健二と甲斐荘楠音」『別冊太陽』(5)、p.123、平凡社。
- 依田義賢(1970)『溝口健二の人と芸術』田畑書店。

(参考資料1 甲斐庄楠音年譜)

年	和暦	月	日	年齢	分類	出来事
1894	明治27	12	13	0		旧旗本甲斐庄正秀、かつの三男として京都市上京区にて誕生
1912	明治45	3	25	18	絵画	京都市立美術工芸学校図案科卒業
1917	大正6	3	25	23	絵画	京都市立絵画専門学校研究科卒業
1918	大正7	11		24	絵画	第1回国画創作協会展に「横櫛」出品入選注目を浴びる
1922	大正11	10		28	絵画	第4回帝展「青衣の女」出品入選
1924	大正13	1		30	絵画	国画創作協会会友
1926	大正15	3		32	絵画	第5回国画創作協会展出品「女と風船」土田麦僊「きたない絵」として陳列拒否
1926	大正15	4		32	絵画	国画創作協会会員
1928	昭和3	4		34	絵画	国画創作協会第1部(日本画)解散
1928	昭和3	11		34	絵画	新樹社結成
1931	昭和6	4		37	絵画	新樹会解消
1934	昭和9	5		40	絵画	京都市主催大礼記念京都美術館美術展覧会出品
1939	昭和14			45	映画	松竹下加茂撮影所溝口健二監督「残菊物語」に参加
1940	昭和15	3		46	映画	松竹下加茂撮影所冬柴泰三「仇討恋人形」美術参加、初めて映画に名前を出す
1941	昭和16	5		47	絵画	東京銀座菊谷ギャラリーにて個展開催
1941	昭和16			47	映画	太秦松竹京都撮影所溝口健二「芸道一代男」時代考証「元禄忠臣蔵」風俗考証
1943	昭和18			49	絵画	「山賊会」誕生
1948	昭和23	6		54	映画	市川右太衛門「右太衛門劇団」全国巡業開始「旗本退屈男」衣裳・舞台美術参加
1953	昭和28	9		59	映画	「風俗考証」大映映画溝口健二「雨月物語」ヴェネチア国際映画祭銀獅子賞受賞
1954	昭和29			60	映画	京都市立芸大出身の映画人による「はみだし会」結成
1955	昭和30	12		61	映画	「雨月物語」アカデミー賞衣裳部門にノミネート
1956	昭和31	8		62	映画	溝口健二死去
1958	昭和33	8	12	64	映画	東映「市川右太衛門主演300本記念映画 旗本退屈男」公開
1960	昭和35	11		66	絵画	京都土橋画廊「さんぞく会展」出品、以後5回昭和46年まで同会展出品
1963	昭和38	11		69	絵画	京都市美術館にて「国画創作協会回顧展」開催出品、以後再注目を浴びる
1965	昭和51	1		71	映画	東映映画伊藤大輔監督「徳川家康」衣裳考証に参加、これを最後に映画界去る
1976	昭和41	3		82	絵画	東京日本橋三越画廊「甲斐庄楠音回顧展」開催これをもって「さんぞく会」解散
1978	昭和53	6	16	84		死去
1984	昭和59	8			絵画	芸術新潮8月号「画家甲斐庄楠音 穢い絵ではいかんのか」特集される
1997	平成9	2			絵画	京都国立近代美術館にて「大正日本画の異オースキづく情念 甲斐庄楠音展」開催
1999	平成11				絵画	角川書店第5回日本ホラー大賞受賞岩井志麻子「ぼっけいきょうてい」表紙飾る。
2006	平成18	6	18		絵画	NHK「新日曜美術館 甲斐庄楠音」放映
2009	平成21				絵画	求龍堂より「甲斐庄楠音画集—ロマンティックエロチスト」出版される。

(参考資料2 松竹甲斐荘担当作品リスト120本)

年	月	日	作品名	主演	監督	担当表記	氏名表記	カラー／モノクロ
1939	10	10	残菊物語	花柳章太郎	溝口健二	(なし)	(なし)	モノクロ
1940	3	14	仇討恋人形	坪井哲	冬島泰三	美術	甲斐荘楠音	モノクロ
1941	2	9	芸道一代男	中村扇雀	溝口健二	時代考証	甲斐荘楠音	モノクロ
1941	12	1	元禄忠臣蔵 前篇	河原崎長十郎	溝口健二	風俗考証	甲斐荘楠音	モノクロ
1942	2	11	元禄忠臣蔵 後篇	河原崎長十郎	溝口健二	風俗考証	甲斐荘楠音	モノクロ
1945	2	8	名刀美女丸	花柳章太郎	溝口健二	美術考証	甲斐荘楠音	モノクロ
1946	12	17	歌麿をめぐる五人の女	坂東蓑助	溝口健二	時代考証	甲斐荘楠音	モノクロ
1947	8	16	女優須磨子の恋	田中絹代	溝口健二	時代考証	甲斐荘楠音	モノクロ
1948	6	21	お銀清次郎 色ざんげ	山路ふみ子	井上金太郎	時代考証	甲斐庄楠音	モノクロ
1949	2	15	我が戀は燃えぬ	田中絹代	溝口健二	風俗考証	甲斐荘楠音	モノクロ
1949	6	12	森の石松	藤田進	吉村公三郎	時代考証	甲斐荘楠音	モノクロ
1949	7	11	新釋四谷怪談 前篇	田中絹代	木下恵介	時代考証	甲斐荘楠音	モノクロ
1949	7	19	新釋四谷怪談 後篇	田中絹代	木下恵介	時代考証	甲斐荘楠音	モノクロ
1950	1	3	影法師 第一部	阪東妻三郎	大曾根辰夫	時代考証	甲斐荘楠音	モノクロ
1950	1	8	続影法師	阪東妻三郎	大曾根辰夫	時代考証	甲斐荘楠音	モノクロ
1950	9	2	風雲金毘羅山	阪東妻三郎	大曾根辰夫	時代考証	甲斐荘楠音	モノクロ
1950	9	16	悲恋華	阪東壽三郎	原研吉	時代考証	甲斐荘楠音	モノクロ
1950	12	2	鮮血の手型 左近捕物帖	阪東妻三郎	原研吉	時代考証	甲斐荘楠音	モノクロ
1951	1	13	おぼろ駕籠	阪東妻三郎	伊藤大輔	時代考証	甲斐荘楠音	モノクロ
1951	11	22	大江戸五人男	阪妻・市川	伊藤大輔	時代考証	甲斐庄楠音	モノクロ
1952	2	22	次郎吉格子	長谷川一夫	伊藤大輔	時代考証	甲斐庄楠音	モノクロ
1952	3	27	鞍馬天狗 天狗廻状	嵐寛寿郎	大曾根辰夫	時代考証	甲斐庄楠音	モノクロ
1952	5	1	魔像	阪東妻三郎	大曾根辰夫	時代考証	甲斐庄楠音	モノクロ
1952	5	29	月形半平太	市川右太衛門	内出好吉	時代考証	甲斐庄楠音	モノクロ
1952	8	14	丹下左膳	坂東妻三郎	松田定次	時代考証	甲斐庄楠音	モノクロ
1952	8	28	柳生の兄弟	北上弥太郎	内出好吉	時代考証	甲斐庄楠音	モノクロ
1952	9	17	牛若丸	美空ひばり	大曾根辰夫	時代考証	甲斐庄楠音	モノクロ
1952	10	15	武蔵と小次郎	辰巳柳太郎	マキノ雅弘	時代考証	甲斐庄楠音	モノクロ
1952	12	10	情火	若原雅夫	大庭秀雄	時代考証	甲斐荘楠音	モノクロ
1952	1	14	旗本退屈男 江戸城罷り通る	市川右太衛門	大曾根辰夫	(なし)	(なし)	モノクロ
1953	1	22	江戸いろは祭	高田浩吉	内出好吉	時代考証	甲斐庄楠音	モノクロ
1953	3	26	疾風からず隊	高田浩吉	内出好吉	時代考証	甲斐荘楠音	モノクロ
1953	4	15	お役者小僧	高田浩吉	冬島泰三	時代考証	甲斐庄楠音	モノクロ
1953	8	12	あばれ獅子	阪東妻三郎	大曾根辰夫	時代考証	甲斐庄楠音	モノクロ
1953	9	22	鞍馬天狗 青面夜叉	島田正吾	野村芳太郎	時代考証	甲斐庄楠音	モノクロ
1953	10	14	花の生涯 彦根篇 江戸篇	松本幸四郎	大曾根辰夫	衣裳考証	甲斐荘楠音	モノクロ
1953	10	27	山を守る兄弟	美空ひばり	松田定次	時代考証	甲斐庄楠音	モノクロ
1954	1	9	お役者変化	高田浩吉	大曾根辰夫	衣裳考証	甲斐荘楠音	モノクロ
1954	1	21	慶安水滸傳	高田浩吉	野村芳太郎	時代考証	甲斐荘楠音	モノクロ
1954	3	3	濡れ髪権八	高橋貞二	大曾根辰夫	時代考証	甲斐庄楠音	モノクロ
1954	4	7	傳七捕物帖 人肌千両	高田浩吉	松田定次	時代考証	(なし)	モノクロ
1954	4	21	快盗三人吉三	北上弥太郎	冬島泰三	衣裳考証	甲斐荘楠音	モノクロ
1954	6	1	素浪人日和	高田浩吉	大曾根辰夫	衣裳考証	甲斐荘楠音	モノクロ

年	月	日	作品名	主演	監督	担当表記	氏名表記	カラー／モノクロ
1954	6	23	美男天狗党	北上弥太郎	内出好吉	衣裳考証	甲斐荘楠音	モノクロ
1954	7	6	伝七捕物帖 刺青女難	高田浩吉	岩間鶴夫	衣裳考証	甲斐荘楠音	モノクロ
1954	9	1	江戸の夕映	市川海老蔵	中村登	衣裳考証	甲斐荘楠音	モノクロ
1954	10	17	忠臣蔵 花の巻雪の巻	松本幸四郎	大曾根辰夫	衣裳考証	甲斐荘楠音	モノクロ
1954	12	8	伝七捕物帖 黄金弁天	高田浩吉	福田晴一	衣裳考証	(なし)	モノクロ
1955	1	3	晴姿稚児の剣法	中村賀津雄	酒井辰雄	衣裳考証	甲斐荘楠音	モノクロ
1955	1	9	八州遊俠傳 白鷺三味線	高田浩吉	岩間鶴夫	衣裳考証	甲斐荘楠音	モノクロ
1955	2	22	喧嘩奴	高田浩吉	福田晴一	衣裳考証	甲斐荘楠音	モノクロ
1955	4	19	伝七捕物帖 女郎蜘蛛	高田浩吉	福田晴一	衣裳考証	甲斐荘楠音	モノクロ
1955	6	7	八州遊俠傳 源太あばれ笠	高田浩吉	岩間鶴夫	衣裳考証	甲斐荘楠音	モノクロ
1955	7	26	振袖劔法	中村賀津雄	酒井辰雄	衣裳考証	甲斐荘楠音	モノクロ
1955	8	10	お役者小僧江戸千両幟	高田浩吉	福田晴一	衣裳考証	甲斐荘楠音	モノクロ
1955	9	21	荒木又右衛門	松本幸四郎	堀内真直	衣裳考証	甲斐荘楠音	モノクロ
1955	10	4	若き日の千葉周作	中村賀津雄	酒井辰雄	衣裳考証	甲斐荘楠音	モノクロ
1955	10	30	繪島生島	淡島千景	大庭秀雄	衣裳風俗考証	甲斐荘楠音	カラー
1955	12	21	元禄美少年記	中村賀津雄	伊藤大輔	風俗考証	甲斐荘楠音	モノクロ
1955	12	28	大江戸出世双六	高田浩吉	福田晴一	衣裳考証	甲斐荘楠音	モノクロ
1956	1	8	伝七捕物帖 花嫁小判	高田浩吉	福田晴一	衣裳考証	(なし)	モノクロ
1956	1	22	大当たり男一代	大木実	大曾根辰保	衣裳考証	甲斐荘楠音	モノクロ
1956	2	19	涙の花道	中村賀津雄	堀内真直	衣裳考証	甲斐荘楠音	モノクロ
1956	4	25	流轉	高田浩吉	大曾根辰保	衣裳考証	甲斐荘楠音	カラー
1956	6	1	伝七捕物帖女狐駕籠	高田浩吉	福田晴一	衣裳考証	甲斐荘楠音	モノクロ
1956	6	29	黒姫秘帳	中村賀津雄	芦原正	衣裳考証	甲斐荘楠音	モノクロ
1956	7	13	のんき侍大暴れ	中村賀津雄	倉橋良介	衣裳考証	甲斐荘楠音	モノクロ
1956	8	14	花笠太鼓	高田浩吉	福田晴一	衣裳考証	甲斐荘楠音	モノクロ
1956	10	6	京洛五人男	高田浩吉	大曾根辰保	衣裳考証	甲斐荘楠音	モノクロ
1957	1	3	歌う弥次喜多 黄金道中	高田浩吉	大曾根辰保	衣裳考証	甲斐荘楠音	カラー
1957	1	15	りんどう鴉	高田浩吉	福田晴一	衣裳考証	甲斐荘楠音	モノクロ
1957	5	7	折鶴さんど笠	高田浩吉	福田晴一	衣裳考証	甲斐荘楠音	モノクロ
1957	6	4	勢揃い桃色御殿	近衛十四郎	酒井辰雄	衣裳考証	甲斐荘楠音	モノクロ
1957	7	1	赤城の血煙 国定忠治	高田浩吉	福田晴一	衣裳考証	甲斐荘楠音	カラー
1957	7	30	怪談色ざんげ 狂恋女師匠	北上弥太郎	倉橋良介	衣裳考証	甲斐荘楠音	モノクロ
1957	8	10	大忠臣蔵	市川猿之助	大曾根辰保	衣裳考証	甲斐荘楠音	カラー
1957	9	22	伝七捕物帖 銀蛇呪文	高田浩吉	福田晴一	衣裳考証	甲斐荘楠音	カラー
1957	11	12	お富と切られ与三郎	高田浩吉	酒井辰雄	衣裳考証	甲斐荘楠音	モノクロ
1958	1	9	伝七捕物帖 鬪體狂女	高田浩吉	福田晴一	衣裳考証	甲斐荘楠音	カラー
1958	1	15	七人の女掏摸	高千穂ひづる	堀内真直	衣裳考証	甲斐荘楠音	モノクロ
1958	2	26	勇み肌千両男	高田浩吉	倉橋良介	衣裳考証	甲斐荘楠音	モノクロ
1958	4	1	江戸群盗傳	近衛十四郎	福田晴一	衣裳考証	甲斐荘楠音	モノクロ
1958	4	16	大江戸風雲絵巻 天の眼	高田浩吉	大曾根辰保	衣裳考証	甲斐荘楠音	カラー
1958	4	29	清水の佐太郎	高田浩吉	酒井辰雄	衣裳考証	甲斐荘楠音	カラー
1958	5	13	天保水滸伝	高田浩吉	渡辺邦男	衣裳考証	甲斐荘楠音	カラー
1958	6	29	女ざむらい只今参上	美空ひばり	渡辺邦男	衣裳考証	甲斐荘楠音	カラー

年	月	日	作品名	主演	監督	担当表記	氏名表記	カラー／モノクロ
1958	8	10	太閤記	高田浩吉	大曾根辰保	衣裳考証	甲斐荘楠音	カラー
1958	8	24	浮世風呂	伴淳三郎	木村恵吾	衣裳考証	甲斐荘楠音	モノクロ
1958	9	30	大東京誕生 大江戸の鐘	高田浩吉	大曾根辰保	衣裳考証	甲斐荘楠音	カラー
1958	11	23	妻恋道中	高田浩吉	的井邦雄	衣裳考証	甲斐荘楠音	モノクロ
1958	12	21	忠臣蔵 暁の陣太鼓	森美樹	倉橋良介	衣裳考証	甲斐荘楠音	モノクロ
1958	12	28	大暴れ東海道	高田浩吉	渡辺邦男	衣裳考証	甲斐荘楠音	モノクロ
1959	1	22	朝やけ雲の決闘	市川団子	萩原遼	衣裳考証	甲斐荘楠音	モノクロ
1959	2	10	伝七捕物帖 女肌地獄	高田浩吉	酒井欣也	衣裳考証	甲斐荘楠音	カラー
1959	3	17	かた破り道中記	市川男女之助	福田晴一	衣裳考証	甲斐荘楠音	モノクロ
1959	4	5	修羅桜	高田浩吉	大曾根辰保	衣裳考証	甲斐荘楠音	カラー
1959	6	14	紀の国屋文左衛門	高田浩吉	渡辺邦男	衣裳考証	甲斐荘楠音	カラー
1959	7	7	水戸黄門漫遊記・御用御用物語	伴淳三郎	福田晴一	衣裳考証	甲斐荘楠音	カラー
1959	8	2	伝七捕物帖 幽霊飛脚	高田浩吉	酒井欣也	衣裳考証	甲斐荘楠音	カラー
1959	8	24	姫夜叉行状記	嵯峨三智子	倉橋良介	衣裳考証	甲斐荘楠音	モノクロ
1959	9	13	花の幡随院	松本幸四郎	大曾根辰保	衣裳考証	甲斐荘楠音	カラー
1959	10	4	柳生旅日記 天地夢想剣	近衛十四郎	萩原遼	衣裳考証	甲斐荘楠音	モノクロ
1959	10	24	巖流島前夜	森美樹	大曾根辰保	衣裳考証	甲斐荘楠音	モノクロ
1959	11	11	お夏捕物帳 月夜に消えた女	嵯峨三智子	萩原遼	衣裳考証	甲斐荘楠音	カラー
1959	12	27	剣侠五人男	高田浩吉	渡辺邦男	衣裳考証	甲斐荘楠音	カラー
1960	1	21	忍術武者修行	アチャコ	福田晴一	衣裳考証	甲斐荘楠音	モノクロ
1960	1	26	抱寝の長脇差	高田浩吉	大曾根辰保	衣裳考証	甲斐荘楠音	モノクロ
1960	2	26	越後獅子祭	田村高広	渡辺邦男	衣裳考証	甲斐荘楠音	モノクロ
1960	3	13	江戸の顔役	伴淳三郎	酒井欣也	衣裳考証	甲斐荘楠音	モノクロ
1960	4	15	地獄の百万両	田村高広	萩原遼	衣裳考証	甲斐荘楠音	カラー
1960	5	27	おさい権三 燃ゆる恋草	嵯峨三智子	渡辺邦男	衣裳考証	甲斐荘楠音	カラー
1960	7	6	闇法師	田村高広	倉橋良介	衣裳考証	甲斐荘楠音	カラー
1960	8	23	お夏捕物帳 通り魔	嵯峨三智子	萩原遼	衣裳考証	甲斐荘楠音	カラー
1960	9	11	敵は本能寺にあり	松本幸四郎	大曾根辰保	衣裳考証	甲斐荘楠音	カラー
1960	12	11	天下御免	松本幸四郎	渡辺邦男	衣裳参考	甲斐荘楠音	カラー
1960	12	27	あんみつ姫の武者修業	鰐淵晴子	大曾根辰保	衣裳考証	甲斐荘楠音	カラー
1961	1	3	旗本愚連隊	田村高広	福田晴一	衣裳考証	甲斐荘楠音	カラー
1962	9	9	仮名手本忠臣蔵 前篇 義士始末記 后篇	市川猿之助	大曾根辰保	衣裳考証	甲斐荘楠音	カラー
1963	1	27	無宿人別帳	佐田啓二	井上和男	衣裳考証	甲斐荘楠音	モノクロ
1963	10	17	残菊物語	岡田茉莉子	大庭秀雄	衣裳考証	甲斐荘楠音	カラー
1963	11	17	丹下左膳	丹波哲郎	内川清一郎	時代考証	甲斐荘楠音	カラー

(参考資料3 東映甲斐荘担当作品リスト91本)

年	月	日	作品名	主演	監督	担当表記	氏名表記	カラー／モノクロ
1950	9	23	旗本退屈男捕物控 七人の花嫁	市川右太衛門	松田定次	(なし)	(なし)	モノクロ
1950	10	7	旗本退屈男捕物控 毒殺魔殿	市川右太衛門	松田定次	(なし)	(なし)	モノクロ
1951	9	7	旗本退屈男 唐人街の鬼	市川右太衛門	中川信夫	(なし)	(なし)	モノクロ
1952	4	24	赤穂城	片岡千恵蔵	萩原遼	衣裳考証	甲斐荘楠音	モノクロ
1952	5	29	続赤穂城	片岡千恵蔵	萩原遼	衣裳考証	甲斐荘楠音	モノクロ
1953	1	3	喧嘩笠	片岡千恵蔵	萩原遼	時代考証	(なし)	モノクロ
1953	1	22	旗本退屈男 八百八丁罷り通る	市川右太衛門	佐々木康	(なし)	(なし)	モノクロ
1953	3	8	朝焼け富士 前篇	市川右太衛門	松田定次	時代考証	甲斐荘楠音	モノクロ
1953	3	17	朝焼け富士 後篇	市川右太衛門	松田定次	時代考証	(なし)	モノクロ
1953	4	1	女間者秘聞 赤穂浪士	片岡千恵蔵	佐々木康	時代考証	(なし)	モノクロ
1953	4	14	女難街道	市川右太衛門	渡辺邦男	時代考証	(なし)	モノクロ
1953	5	13	新書太閤記 流転日吉丸	市川右太衛門	萩原遼	時代考証	甲斐荘楠音	モノクロ
1953	7	12	素浪人奉行	市川右太衛門	佐々木康	衣裳考証	甲斐荘楠音	モノクロ
1953	8	25	神変あばれ笠	市川右太衛門	渡辺邦男	時代考証	甲斐荘楠音	モノクロ
1953	8	31	神変あばれ笠 後編	市川右太衛門	渡辺邦男	時代考証	甲斐荘楠音	モノクロ
1953	10	7	新書太閤記 急襲桶狭間	市川右太衛門	松田定次	時代考証	甲斐荘楠音	モノクロ
1953	11	18	日輪	片岡千恵蔵	渡辺邦男	時代考証	甲斐荘楠音	カラー
1954	1	3	旗本退屈男 どくろ屋敷	市川右太衛門	松田定次	(なし)	(なし)	モノクロ
1954	1	27	愛染道中 男の血祭	市川右太衛門	佐伯清	時代考証	甲斐荘楠音	モノクロ
1954	3	10	疾風愛憎峠	市川右太衛門	佐々木康	時代考証	甲斐荘楠音	モノクロ
1954	3	31	巷説荒木又右衛門 暁の三十八番斬り	市川右太衛門	渡辺邦男	時代考証	甲斐荘楠音	モノクロ
1954	5	10	鳴門秘帖 前編	市川右太衛門	渡辺邦男	時代考証	甲斐荘楠音	モノクロ
1954	5	31	鳴門秘帖 後編	市川右太衛門	渡辺邦男	時代考証	甲斐荘楠音	モノクロ
1954	7	13	影法師一番手柄 妖異忠臣蔵	市川右太衛門	松田定次	時代考証	甲斐荘楠音	モノクロ
1954	8	31	旗本退屈男 謎の百万両	市川右太衛門	佐々木康	時代考証	甲斐荘楠音	モノクロ
1954	11	1	変化大名	市川右太衛門	佐々木康	時代考証	(なし)	モノクロ
1954	11	15	続 変化大名	市川右太衛門	佐々木康	時代考証	(なし)	モノクロ
1954	12	27	旗本退屈男 謎の怪人屋敷	市川右太衛門	渡辺邦男	時代考証	甲斐荘楠音	モノクロ
1955	1	21	恋天狗	市川右太衛門	渡辺邦男	衣裳考証	甲斐荘楠音	モノクロ
1955	3	20	風雲将棋谷	市川右太衛門	松田定次	衣裳考証	甲斐荘楠音	モノクロ
1955	4	26	阿修羅四天王	市川右太衛門	河野寿一	衣裳考証	甲斐荘楠音	モノクロ
1955	6	28	虚無僧系図	市川右太衛門	河野寿一	時代考証	甲斐荘楠音	モノクロ
1955	8	14	旗本退屈男 謎の伏魔殿	市川右太衛門	佐々木康	衣裳考証	甲斐荘楠音	モノクロ
1955	12	28	旗本退屈男 謎の決闘状	市川右太衛門	佐々木康	(なし)	(なし)	モノクロ
1956	1	15	赤穂浪士	片岡千恵蔵	松田定次	時代考証	甲斐荘楠音	カラー
1956	7	12	旗本退屈男 謎の幽霊船	市川右太衛門	松田定次	衣裳考証	甲斐荘楠音	カラー
1956	8	29	罽毘銭	市川右太衛門	松田定次	衣裳考証	甲斐荘楠音	モノクロ
1956	10	17	曾我兄弟 富士の夜襲	中村錦之助	佐々木康	衣裳考証	甲斐荘楠音	カラー
1956	10	24	やくざ大名	市川右太衛門	佐々木康	衣裳考証	甲斐荘楠音	モノクロ
1956	10	31	妖蛇の魔殿	片岡千恵蔵	松田定次	衣裳考証	甲斐荘楠音	カラー
1956	11	20	朱鞘罷り通る	市川右太衛門	河野寿一	時代考証	甲斐荘楠音	モノクロ
1957	1	3	任侠清水港	片岡千恵蔵	松田定次	衣裳考証	甲斐荘楠音	カラー

年	月	日	作品名	主演	監督	担当表記	氏名表記	カラー／モノクロ
1957	1	15	旗本退屈男 謎の紅蓮塔	市川右太衛門	松田定次	衣裳考証	甲斐荘楠音	モノクロ
1957	1	29	花まつり男道中	市川右太衛門	小沢茂弘	時代考証	甲斐荘楠音	モノクロ
1957	3	13	大名囃子	市川右太衛門	佐々木康	衣裳考証	甲斐荘楠音	モノクロ
1957	3	27	大名囃子 後編	市川右太衛門	佐々木康	衣裳考証	甲斐荘楠音	モノクロ
1957	4	2	鳳城の花嫁	大友柳太朗	松田定次	衣裳考証	甲斐荘楠音	カラー
1957	4	30	隼人族の反乱	市川右太衛門	松田定次	衣裳考証	甲斐荘楠音	カラー
1957	7	23	魔の紅蜥蜴	市川右太衛門	加藤泰	衣裳考証	甲斐荘楠音	モノクロ
1957	8	11	水戸黄門	月形龍之介	佐々木康	衣裳考証	甲斐荘楠音	カラー
1957	9	8	黄金の伏魔殿	市川右太衛門	佐々木康	衣裳考証	甲斐荘楠音	モノクロ
1957	9	15	ゆうれい船	中村錦之助	松田定次	衣裳考証	甲斐荘楠音	カラー
1957	9	23	ゆうれい船 後編	中村錦之助	松田定次	衣裳考証	甲斐荘楠音	カラー
1957	10	29	富士に立つ影	市川右太衛門	佐々木康	衣裳考証	甲斐荘楠音	カラー
1957	12	28	旗本退屈男 謎の蛇姫屋敷	市川右太衛門	佐々木康	衣裳考証	甲斐荘楠音	カラー
1958	1	3	任侠東海道	片岡千恵蔵	松田定次	衣裳考証	甲斐荘楠音	カラー
1958	1	9	神変麁香猫	大友柳太朗	小沢茂弘	衣裳考証	甲斐荘楠音	カラー
1958	3	18	丹下左膳 決定版	大友柳太朗	松田定次	衣裳考証	甲斐荘楠音	カラー
1958	3	25	葵秘帖	市川右太衛門	小沢茂弘	衣裳考証	甲斐荘楠音	モノクロ
1958	4	30	大江戸七人衆	市川右太衛門	松田定次	衣裳考証	甲斐荘楠音	カラー
1958	5	27	浪人八景	市川右太衛門	加藤泰	衣裳考証	甲斐荘楠音	カラー
1958	8	12	市川右太衛門三百本出演記念 旗本退屈男	市川右太衛門	松田定次	衣裳考証	甲斐荘楠音	カラー
1958	9	23	喧嘩太平記	市川右太衛門	小沢茂弘	衣裳考証	甲斐荘楠音	カラー
1958	10	1	隠密七生記	東千代之介	松田定次	衣裳考証	甲斐荘楠音	カラー
1958	11	11	修羅八荒	市川右太衛門	佐々木康	衣裳考証	甲斐荘楠音	カラー
1959	1	3	丹下左膳 怒涛編	大友柳太朗	松田定次	衣裳考証	甲斐荘楠音	カラー
1959	1	9	旗本退屈男 謎の南蛮太鼓	市川右太衛門	佐々木康	衣裳考証	甲斐荘楠音	カラー
1959	8	9	決斗水滸伝 怒涛の対決	市川右太衛門	佐々木康	衣裳考証	(なし)	カラー
1959	1	15	忠臣蔵 櫻花の巻・菊花の巻	片岡千恵蔵	松田定次	衣裳考証	甲斐荘楠音	カラー
1959	2	10	あばれ大名	市川右太衛門	内出好吉	衣裳考証	甲斐荘楠音	カラー
1959	3	17	新吾十番勝負	大川橋蔵	松田定次	衣裳考証	甲斐荘楠音	カラー
1959	3	25	あばれ街道	市川右太衛門	加藤泰	衣裳考証	甲斐荘楠音	カラー
1959	6	28	旗本退屈男 謎の大文字	市川右太衛門	佐々木康	衣裳考証	甲斐荘楠音	カラー
1959	10	11	天下の伊賀越 暁の血戦	市川右太衛門	松田定次	衣裳考証	甲斐荘楠音	カラー
1960	1	3	任侠中山道	片岡千恵蔵	松田定次	衣裳考証	甲斐荘楠音	カラー
1960	1	9	旗本退屈男 謎の幽霊島	市川右太衛門	佐々木康	衣裳考証	(なし)	カラー
1960	2	14	あらくれ大名	市川右太衛門	内出好吉	衣裳考証	甲斐荘楠音	カラー
1960	6	21	親鸞	中村錦之助	田坂具隆	衣裳考証	甲斐荘楠音	カラー
1960	6	29	旗本退屈男 謎の暗殺隊	市川右太衛門	松田定次	衣裳考証	甲斐荘楠音	カラー
1960	8	7	水戸黄門	月形龍之介	松田定次	衣裳考証	(なし)	カラー
1960	9	27	続親鸞	中村錦之助	田坂具隆	衣裳考証	甲斐荘楠音	カラー
1961	3	28	創立十周年記念 赤穂浪士	片岡千恵蔵	松田定次	衣裳考証	甲斐荘楠音	カラー
1961	8	1	旗本退屈男 謎の七色御殿	市川右太衛門	佐々木康	(なし)	(なし)	カラー
1961	11	8	反逆児	中村錦之助	伊藤大輔	衣裳考証	甲斐荘楠音	カラー

年	月	日	作品名	主演	監督	担当表記	氏名表記	カラー／モノクロ
1962	1	23	旗本退屈男 謎の珊瑚屋敷	市川右太衛門	中川信夫	衣裳考証	(なし)	カラー
1962	1	31	天下のご意見番	片岡千恵蔵	松田定次	衣裳考証	甲斐荘楠音	カラー
1962	5	13	源九郎義経	北大路欣也	松田定次	衣裳考証	甲斐荘楠音	カラー
1963	1	3	勢揃い、東海道	片岡千恵蔵	松田定次	衣裳考証	甲斐荘楠音	カラー
1963	1	9	旗本退屈男 謎の竜神岬	市川右太衛門	佐々木康	(なし)	(なし)	カラー
1963	3	31	中仙道のつむじ風	松方弘樹	松田定次	衣裳考証	甲斐荘楠音	カラー
1965	1	3	徳川家康	中村錦之助	伊藤大輔	衣裳考証	甲斐荘楠音	カラー

(参考資料4 新東宝、大映、日活、リリア・アルバ甲斐荘担当作品リスト計18本)

年	月	日	会社名	作品名	主演	監督	担当表記	氏名表記	カラー／モノクロ
1950	10	21	新東宝	雪夫人絵図	小暮美千代	溝口健二	(なし)	(なし)	モノクロ
1955	10	2	新東宝	王将一代	辰巳柳太郎	伊藤大輔	風俗考証	甲斐荘楠音	モノクロ
1948	6	10	大映	好色五人女	花柳小菊	野淵昶	美術考証	甲斐荘楠音	モノクロ
1948	9	20	大映	千姫御殿	花柳小菊	野淵昶	風俗考証	甲斐荘楠音	モノクロ
1949	9	11	大映	山を飛ぶ花笠	尾上梅幸	伊藤大輔	時代考証	甲斐荘楠音	モノクロ
1951	6	22	大映	お遊さま	田中絹代	溝口健二	衣裳考証	甲斐荘楠音	モノクロ
1952	3	20	大映	修羅城秘聞 双龍の巻	長谷川一夫	衣笠貞之助	衣裳考証	甲斐荘楠音	モノクロ
1952	5	8	大映	修羅城秘聞 飛雲の巻	長谷川一夫	衣笠貞之助	衣裳考証	甲斐荘楠音	モノクロ
1953	3	26	大映	雨月物語	京マチ子	溝口健二	風俗考証	甲斐荘楠音	モノクロ
1953	6	3	大映	獅子の座	長谷川一夫	伊藤大輔	風俗考証	甲斐荘楠音	モノクロ
1954	3	3	大映	番町皿屋敷 お菊と播磨	長谷川一夫	伊藤大輔	衣裳考証	甲斐荘楠音	モノクロ
1954	6	27	大映	春琴物語	京マチ子	伊藤大輔	衣裳考証	甲斐荘楠音	モノクロ
1954	10	20	大映	千姫	京マチ子	木村恵吾	時代考証	甲斐荘楠音	カラー
1957	5	13	大映	刃傷未遂	長谷川一夫	加戸敏	考証	甲斐荘楠音	モノクロ
1957	6	25	大映	地獄花	鶴田浩二	伊藤大輔	風俗考証	甲斐荘楠音	カラー
1959	4	1	大映	女と海賊	長谷川一夫	伊藤大輔	風俗考証	甲斐荘楠音	カラー
1957	7	9	日活	月下の若武者	長門裕之	冬島泰三	衣裳考証	甲斐荘楠音	カラー
1955	2	25	リリアアルバ	戦国秘聞	山村聡	大岩大介	時代考証	甲斐荘楠音	モノクロ

(参考資料5 溝口健二監督作品一覧表)

年	月	日	会社	作品名	担当表記	氏名表記
1939	10	10	松竹下加茂	残菊物語	時代考証	寺門静吉
1940	9	19	松竹京都	浪花女	時代考証	寺門静吉
1941	2	9	松竹京都	芸道一代男	時代考証	甲斐荘楠音
1941	12	1	松竹京都	元禄忠臣蔵・前篇	風俗考証	甲斐荘楠音
1942	2	11	松竹京都	元禄忠臣蔵・後篇	風俗考証	甲斐荘楠音
1944	6	22	松竹京都	団十郎三代		
1944	12	28	松竹京都	宮本武蔵		
1945	2	8	松竹京都	名刀美女丸	美術考証	甲斐荘楠音
1945	2	22	松竹京都	必勝歌		
1946	4	18	松竹京都	女性の勝利		
1946	12	15	松竹京都	歌麿をめぐる五人の女	時代考証	甲斐荘楠音
1947	8	16	松竹京都	女優須磨子の恋	風俗考証 風俗考証	加藤精一 甲斐荘楠音
1948	5	26	松竹京都	夜の女たち		
1949	2	9	松竹京都	我が恋は燃えぬ	風俗考証	甲斐荘楠音
1950	10	21	新東宝	雪夫人絵図		
1951	6	22	大映京都	お遊さま	衣裳考証	甲斐荘楠音
1951	9	14	東宝	武蔵野夫人		
1952	4	17	新東宝	西鶴一代女		
1953	3	26	大映京都	雨月物語	風俗考証	甲斐荘楠音
1953	8	12	大映京都	祇園囃子	衣裳補導	上野芳生
1954	3	31	大映京都	山椒大夫	衣裳考証	上野芳生
1954	6	20	大映京都	噂の女	扮装	上野芳生
1954	11	23	大映京都	近松物語	衣裳考証	上野芳生
1955	5	3	大映東京	楊貴妃	衣裳製作	上野芳生
1955	9	21	大映京都	新・平家物語	衣裳考証	上野芳生
1956	3	18	大映東京	赤線地帯		

(参考資料6 衣笠貞之助監督作品一覧表)

年	月	日	会社	作品名	担当表記	氏名表記
1938	6	17	松竹下加茂	黒田誠忠録	風俗考証	吉川観方
1939	5	4	松竹下加茂	月形半平太		
1940	4	3	東宝	蛇姫様		
1940	8	14	東宝	続蛇姫様		
1941	11	29	東宝	川中島合戦	時代考証	鳥居清言
1943	10	21	東宝	進め独立旗		
1945	2	22	東宝	間諜海の薔薇		
1946	7	11	東宝	或る夜の殿様		
1947	3	11	東宝	四つの恋の物語		
1947	12	9	東宝	女優		
1948	12	23	新演技座	小判鮫 第一部 怒濤篇		
1949	1	11	新演技座	小判鮫 第二部 愛憎篇		
1949	11	27	新演技座	甲賀屋敷		
1950	4	16	東宝	殺人者の顔		
1950	12	30	大映京都	紅蝙蝠		
1951	3	15	大映京都	月の渡り鳥		
1951	7	11	大映京都	名月走馬燈		
1952	3	20	大映京都	修羅城秘聞 双竜の巻	衣裳考証	甲斐荘楠音
1952	5	8	大映京都	続修羅城秘聞 飛竜の巻	衣裳考証	甲斐荘楠音
1952	11	13	大映京都	大仏開眼	扮装 風俗考証	上野芳生 江馬務
1953	10	31	大映京都	地獄門 大映京都		
1954	2	3	大映京都	雪の夜の決闘		
1954	4	28	大映京都	花の長脇差		
1954	8	11	大映京都	鉄火奉行		
1955	1	9	大映東京	川のある下町の話		
1955	4	24	大映東京	薔薇はいくたびか		
1955	9	28	大映東京	婦系図 湯島の白梅		
1956	1	15	大映京都	新平家物語 義仲をめぐる三人の女	衣裳考証	上野芳生
1956	5	1	大映東京	火花		
1956	10	17	大映京都	月形半平太 花の巻 嵐の巻	衣裳考証 時代考証	上野芳生 吉川観方
1957	4	30	大映京都	源氏物語 浮舟		
1957	9	29	大映京都	鳴門秘帖		
1958	1	29	大映東京	春高樓の花の宴		
1958	5	25	大映東京	大阪の女		
1958	11	29	大映東京	白鷺	衣裳考証	上野芳生
1959	3	17	大映東京	情炎	衣裳考証	上野芳生
1959	9	27	大映京都	かげろう絵図	衣裳考証	上野芳生
1960	5	18	大映東京	歌行燈		
1961	3	8	大映東京	みだれ髪		
1961	10	14	大映東京	お琴と佐助	衣裳考証	上野芳生
1963	3	31	大映東京	嘘		
1963	10	5	大映京都	妖僧	衣裳考証	上野芳生

(参考資料7 伊藤大輔監督作品一覧表)

年	月	日	会社	作品名	担当表記	氏名表記
1941	10	25	松竹下加茂	鷲ノ王峠		
1942	10	29	大映京都	鞍馬天狗		
1943	5	13	大映京都	二刀流開眼		
1943	7	15	大映京都	決闘般若坂		
1944	5	11	大映京都	国際密輸団		
1945	7	12	大映京都	東海水滸伝		
1947	10	28	大映京都	素浪人罷通る		
1948	10	18	大映京都	王将		
1949	9	11	大映京都	山を飛ぶ花笠	時代考証	甲斐荘楠音
1950	3	5	大映東京	遙かなり母の国		
1950	5	6	大映京都	われ幻の魚見たり		
1950	11	3	東横	レ・ミゼラブルあゝ無情		
1951	1	13	松竹京都	おぼろ駕籠	時代考証	甲斐荘楠音
1951	11	22	松竹京都	大江戸五人男	時代考証	甲斐荘楠音
1952	2	22	松竹京都	治郎吉格子	時代考証	甲斐荘楠音
1953	6	3	大映京都	獅子の座	風俗考証	甲斐荘楠音
1954	3	3	大映京都	お菊と播磨	衣裳考証	甲斐荘楠音
1954	6	27	大映東京	春琴物語	衣裳考証	甲斐荘楠音
1955	1	22	新東宝	明治一代女	衣裳考証	上野芳生
1955	7	26	新東宝	下郎の首		
1955	10	2	新東宝	王将一代	風俗考証	甲斐荘楠音
1955	12	21	松竹京都	元禄美少年録	風俗考証	甲斐荘楠音
1957	1	15	大映東京	いとはん物語		
1957	6	25	大映京都	地獄花	風俗考証	甲斐荘楠音
1958	11	29	大映京都	弁天小僧		
1959	4	1	大映京都	女と海賊		
1959	7	12	大映京都	ジャン有馬の襲撃		
1960	7	10	大映京都	切られ与三郎		
1960	11	16	大映京都	月の出の決闘		
1961	11	8	東映太秦	反逆児	衣裳考証	甲斐荘楠音
1962	3	7	東映太秦	源氏九郎颯爽記秘剣揚羽の蝶		
1962	11	23	東映大泉	王将		
1963	4	21	東映太秦	この首一万石		
1965	1	3	東映太秦	徳川家康	衣裳考証	甲斐荘楠音

(参考資料8 松田定次監督作品一覧表)

年	月	日	会社	作品名	担当表記	氏名表記
1950	9	23	東横	旗本退屈男捕物控 七人の花嫁		
1950	10	7	東横	旗本退屈男捕物控 毒殺魔殿		
1951	8	10	東映京都	天狗の安		
1951	11	2	東映京都	ハツ墓村		
1951	12	28	東映京都	江戸恋双六		
1952	1	10	東映京都	遊民街の夜襲		
1952	4	30	東映京都	乞食大将		
1952	7	15	東映京都	修羅八荒		
1952	8	14	松竹京都	丹下左膳	時代考証	甲斐荘楠音
1952	10	30	東映京都	流賊黒馬隊 暁の急襲		
1952	11	20	東映京都	流賊黒馬隊 月下の対決		
1953	3	8	東映京都	朝焼け富士 前篇	時代考証	甲斐荘楠音
1953	3	17	東映京都	朝焼け富士 後篇	時代考証	甲斐荘楠音
1953	9	30	東映京都	新書太閤記 急襲桶狭間	時代考証	甲斐荘楠音
1953	10	27	松竹京都	山を守る兄弟	時代考証	甲斐荘楠音
1953	11	3	東映京都	鬼伏せ街道		
1953	12	28	東映京都	忠治旅日記 喧嘩大鼓		
1954	1	3	東映京都	旗本退屈男 どくろ屋敷		
1954	4	7	松竹京都	伝七捕物帳 人肌千両	時代考証	
1954	4	27	東映京都	悪魔が来りて笛を吹く		
1954	7	13	東映京都	影法師一番手柄 妖異忠臣蔵	時代考証	甲斐荘楠音
1954	9	7	東映京都	八百屋お七 ふり袖月夜		
1954	11	30	東映京都	残月一騎討ち		
1955	1	3	東映京都	多羅尾伴内シリーズ 隼の魔王		
1955	3	20	東映京都	風雲将棋谷	衣裳考証	甲斐荘楠音
1955	5	3	東映京都	青龍街の狼		
1955	6	13	東映京都	弥太郎笠		
1955	7	12	東映京都	多羅尾伴内シリーズ 復讐の七仮面		
1956	1	3	東映京都	多羅尾伴内シリーズ 戦慄の七仮面		
1956	1	15	東映京都	赤穂浪士 天の巻 地の巻	衣裳考証	甲斐荘楠音
1956	3	1	東映京都	剣豪二刀流		
1956	5	3	東映京都	父子鷹		
1956	7	12	東映京都	旗本退屈男 謎の幽霊船	衣裳考証	甲斐荘楠音
1956	8	29	東映京都	髑髏銭	衣裳考証	甲斐荘楠音
1956	10	31	東映京都	妖蛇の魔殿	衣裳考証	甲斐荘楠音
1957	1	3	東映京都	任侠清水港	衣裳考証	甲斐荘楠音
1957	1	15	東映京都	旗本退屈男 謎の紅蓮搭	衣裳考証	甲斐荘楠音
1957	4	2	東映京都	鳳城の花嫁	衣裳考証	甲斐荘楠音
1957	4	30	東映京都	隼人族の叛乱	衣裳考証	甲斐荘楠音
1957	9	15	東映京都	ゆうれい船 怒濤篇	衣裳考証	甲斐荘楠音
1957	9	23	東映京都	ゆうれい船 後篇	衣裳考証	甲斐荘楠音
1957	11	10	東映京都	恋風道中		
1958	1	3	東映京都	任侠東海道	衣裳考証	甲斐荘楠音
1958	1	15	東映京都	多羅尾伴内 十三の魔王		

年	月	日	会社	作品名	担当表記	氏名表記
1958	3	18	東映京都	丹下左膳	衣裳考証	甲斐荘楠音
1958	4	30	東映京都	大江戸七人衆	衣裳考証	甲斐荘楠音
1958	6	15	東映京都	奴の拳銃は地獄だぜ		
1958	8	12	東映京都	旗本退屈男	衣裳考証	甲斐荘楠音
1958	10	1	東映京都	隠密七生記	衣裳考証	甲斐荘楠音
1959	1	3	東映京都	丹下左膳 怒濤篇	衣裳考証	甲斐荘楠音
1959	1	15	東映京都	忠臣蔵 桜花の巻 菊花の巻	衣裳考証	甲斐荘楠音
1959	3	17	東映京都	新吾十番勝負	衣裳考証	甲斐荘楠音
1959	5	5	東映京都	風流使者 天下無双の剣		
1959	7	12	東映京都	水戸黄門 天下の副将軍		
1959	10	11	東映京都	天下の伊賀越 暁の血戦	衣裳考証	甲斐荘楠音
1960	1	3	東映京都	任侠中仙道	衣裳考証	甲斐荘楠音
1960	1	15	東映京都	丹下左膳 妖刀濡れ燕		
1960	3	27	東映京都	新吾十番勝負 第三部		
1960	4	16	東映京都	新吾十番勝負 完結篇		
1960	6	29	東映京都	旗本退屈男 謎の暗殺隊	衣裳考証	甲斐荘楠音
1960	8	7	東映京都	水戸黄門	衣裳考証	
1960	10	9	東映京都	庄助武勇伝 会津磐梯山		
1961	1	3	東映京都	新吾二十番勝負		
1961	3	28	東映京都	赤穂浪士 東映京都	衣裳考証	甲斐荘楠音
1961	5	3	東映京都	丹下左膳 濡れ燕一刀流		
1961	7	9	東映京都	新吾二十番勝負 第二部		
1961	10	14	東映京都	維新の篝火		
1962	1	31	東映京都	天下の御意見番	衣裳考証	甲斐荘楠音
1962	5	16	東映京都	源九郎義経	衣裳考証	甲斐荘楠音
1962	7	29	東映京都	右門捕物帖 紅蜥蜴		
1962	10	12	東映京都	血煙り笠		
1962	12	23	東映京都	若さま侍捕物帳 お化粧蜘蛛		
1963	1	3	東映京都	勢揃い東海道	衣裳考証	甲斐荘楠音
1963	3	31	東映京都	中仙道のつむじ風	衣裳考証	甲斐荘楠音
1963	7	13	東映京都	新吾二十番勝負 完結篇		
1963	12	1	東映京都	血と砂の決斗		
1964	1	9	東映京都	人斬り笠		
1964	5	23	東映京都	新吾番外勝負		
1965	2	13	東映京都	バラケツ勝負		
1969	3	15	京都映画	めくらのお市物語 真っ赤な流れ鳥		
1969	6	21	京都映画	めくらのお市 地獄肌		

(参考資料9 大曾根辰夫監督作品一覧表)

年	月	日	会社	作品名	担当表記	氏名表記
1949	12	25	松竹京都	影法師 寛永坂の決闘	時代考証	甲斐荘楠音
1950	1	8	松竹京都	続影法師 龍虎相搏つ	時代考証	甲斐荘楠音
1950	3	25	松竹京都	らくだの馬さん		
1950	7	9	松竹京都	エノケン・ロッパの弥次喜多ブギウギ道中		
1950	9	2	松竹京都	風雲金比羅山	時代考証	甲斐荘楠音
1950	11	18	松竹京都	黒い花		
1951	1	20	松竹京都	地獄の血闘		
1951	6	8	松竹京都	獣の宿		
1951	7	12	松竹京都	鞍馬天狗 角兵衛獅子 松竹京都		
1951	10	12	松竹京都	鞍馬天狗 鞍馬の火祭		
1952	1	14	松竹京都	旗本退屈男 江戸城罷り通る		
1952	2	8	松竹京都	出世鳶		
1952	3	27	松竹京都	鞍馬天狗 天狗廻状	時代考証	甲斐荘楠音
1952	5	1	松竹京都	魔像	時代考証	甲斐荘楠音
1952	9	17	松竹京都	牛若丸	時代考証	甲斐荘楠音
1952	12	29	松竹京都	ひばり姫初夢道中		
1953	3	5	松竹京都	闘魂		
1953	8	12	松竹京都	あばれ獅子	衣裳考証	甲斐荘楠音
1953	10	14	松竹京都	花の生涯 彦根篇 江戸篇	衣裳考証	甲斐荘楠音
1954	1	9	松竹京都	お役者変化	衣裳考証	甲斐荘楠音
1954	3	3	松竹京都	濡れ髪権八	衣裳考証	甲斐荘楠音
1954	6	1	松竹京都	素浪人日和	衣裳考証	甲斐荘楠音
1954	10	17	松竹京都	忠臣蔵 花の巻、雪の巻	衣裳考証	甲斐荘楠音
1954	12	29	松竹京都	七変化狸御殿		
1955	6	21	松竹京都	獄門帳		
1955	11	22	松竹京都	応仁絵巻 吉野の盗族		
1956	1	22	松竹京都	大当り男一代	衣裳考証	甲斐荘楠音
1956	4	25	松竹京都	流転	衣裳考証	甲斐荘楠音
1956	9	19	松竹京都	鶴八鶴次郎	衣裳考証 時代考証	伊藤深水 吉井勇
1956	10	6	松竹京都	京洛五人男	衣裳考証	甲斐荘楠音
1957	1	3	松竹京都	歌う弥次喜多 黄金道中	衣裳考証	甲斐荘楠音
1957	1	22	松竹京都	顔		
1957	4	16	松竹京都	大江戸風雪絵巻 天の眼	衣裳考証	甲斐荘楠音
1957	8	10	松竹京都	大忠臣蔵	衣裳考証	甲斐荘楠音
1957	11	19	松竹京都	侍ニッポン		
1958	1	3	松竹京都	すっ飛び五十三次	衣裳考証	甲斐荘楠音
1958	5	27	松竹京都	現代無宿		
1958	8	10	松竹京都	太閤記 松竹京都	衣裳考証	甲斐荘楠音
1958	9	30	松竹京都	大東京誕生 大江戸の鐘 風雲篇 開花篇	衣裳考証	甲斐荘楠音
1959	4	5	松竹京都	修羅桜	衣裳考証	甲斐荘楠音
1959	9	13	松竹京都	花の番随院	衣裳考証	甲斐荘楠音
1959	10	23	松竹京都	巖流島前夜	衣裳考証	甲斐荘楠音
1960	1	26	松竹京都	抱寝の長脇差	衣裳考証	甲斐荘楠音

年	月	日	会社	作品名	担当表記	氏名表記
1960	9	11	松竹京都	敵は本能寺にあり	衣裳考証	甲斐荘楠音
1960	12	27	松竹京都	あんみつ姫の無者修行	衣裳考証	甲斐荘楠音
1961	5	9	松竹京都	大阪野郎		

(参考資料10 市川右太衛門主演作品一覧表)

年	月	日	会社	作品名	担当表記	氏名表記
1950	9	23	東横	旗本退屈男捕物控 七人の花嫁		
1950	10	27	東横	旗本退屈男捕物控 毒殺魔殿		
1950	11	24	東横	乱れ星荒神山		
1950	12	31	東横	千石纏		
1951	2	17	東横	お艶殺し		
1951	5	5	東映京都	豪快三人男		
1951	9	7	東映京都	旗本退屈男 唐人街の鬼		
1951	11	22	松竹京都	大江戸五人男	時代考証	甲斐荘楠音
1951	12	28	東映京都	江戸恋双六		
1952	1	14	松竹京都	旗本退屈男 江戸城罷り通る		
1952	2	14	東映京都	水戸黄門漫遊記 第一部 地獄の豪賊		
1952	3	6	東映京都	水戸黄門漫遊記 第二部 伏魔殿の妖賊		
1952	4	30	大映京都	乞食大将		
1952	5	29	松竹京都	月形半平太	時代考証	甲斐荘楠音
1952	7	15	東映京都	修羅八荒		
1952	7	31	東映京都	決戦高田の馬場		
1952	10	30	東映京都	流賊黒馬隊 暁の急襲 東映京都		
1952	11	20	東映京都	流賊黒馬隊 月下の対決		
1952	12	29	東映京都	花吹雪男祭り		
1953	1	22	東映京都	旗本退屈男 八百八町罷り通る 東映京都		
1953	3	8	東映京都	朝焼け富士 前篇	時代考証	甲斐荘楠音
1953	3	17	東映京都	朝焼け富士 後篇	時代考証	
1953	4	14	東映京都	女難街道	時代考証	甲斐荘楠音
1953	4	29	松竹京都	ひばりの歌う玉手箱		
1953	5	13	東映京都	新書太閤記 流転日吉丸	時代考証	甲斐荘楠音
1953	7	12	東映京都	素浪人奉行	衣裳考証	甲斐荘楠音
1953	8	25	東映京都	神変あばれ笠 前篇	時代考証	甲斐荘楠音
1953	8	31	東映京都	神変あばれ笠 後篇	時代考証	甲斐荘楠音
1953	9	30	東映京都	新書太閤記 急襲桶狭間	時代考証	甲斐荘楠音
1953	11	18	東映京都	日輪	時代考証	甲斐荘楠音
1953	12	28	東映京都	べらんめえ獅子		
1954	1	3	東映京都	旗本退屈男 どくろ屋敷		
1954	1	27	東映京都	愛染道中 男の血祭	時代考証	甲斐荘楠音
1954	3	10	東映京都	疾風愛憎峠	時代考証	甲斐荘楠音
1954	3	31	東映京都	巷説荒木又右衛門 暁の三十八人斬り	時代考証	甲斐荘楠音
1954	5	10	東映京都	鳴門秘帖 前篇	時代考証	甲斐荘楠音
1954	5	31	東映京都	鳴門秘帖 後篇	時代考証	甲斐荘楠音
1954	7	13	東映京都	影法師一番手柄 妖異忠臣蔵	時代考証	甲斐荘楠音

年	月	日	会社	作品名	担当表記	氏名表記
1954	8	31	東映京都	旗本退屈男 謎の百万両	時代考証	甲斐荘楠音
1954	11	1	東映京都	変化大名	時代考証	
1954	11	15	東映京都	続変化大名	時代考証	
1954	12	27	東映京都	旗本退屈男 謎の怪人屋敷	時代考証	甲斐荘楠音
1955	1	21	東映京都	恋天狗	衣裳考証	甲斐荘楠音
1955	3	20	東映京都	風雲将棋谷	衣裳考証	甲斐荘楠音
1955	4	26	東映京都	阿修羅四天王	衣裳考証	甲斐荘楠音
1955	6	28	東映京都	虚無僧系図	衣裳考証	甲斐荘楠音
1955	8	14	東映京都	旗本退屈男 謎の伏魔殿	衣裳考証	甲斐荘楠音
1955	8	29	東映京都	牢獄の花嫁		
1955	11	1	東映京都	薩摩飛脚		
1955	11	15	東映京都	薩摩飛脚 完結篇		
1955	12	28	東映京都	旗本退屈男 謎の決闘状		
1956	1	15	東映京都	赤穂浪士 天の巻 地の巻	衣裳考証	甲斐荘楠音
1956	3	18	東映京都	快剣士笑いの面		
1956	5	3	東映京都	父子鷹		
1956	7	12	東映京都	旗本退屈男 謎の幽霊船	衣裳考証	甲斐荘楠音
1956	8	29	東映京都	髑髏銭	衣裳考証	甲斐荘楠音
1956	10	24	東映京都	やくざ大名	衣裳考証	甲斐荘楠音
1956	11	20	東映京都	朱鞘罷り通る	衣裳考証	甲斐荘楠音
1957	1	3	東映京都	任侠清水港	衣裳考証	甲斐荘楠音
1957	1	15	東映京都	旗本退屈男 謎の紅蓮搭	衣裳考証	甲斐荘楠音
1957	1	29	東映京都	花まつり男道中	衣裳考証	甲斐荘楠音
1957	3	13	東映京都	大名囃子	衣裳考証	甲斐荘楠音
1957	3	27	東映京都	大名囃子 後篇	衣裳考証	甲斐荘楠音
1957	4	30	東映京都	隼人族の叛乱	衣裳考証	甲斐荘楠音
1957	6	10	東映京都	股旅男八景 殿さま鴉		
1957	7	23	東映京都	魔の紅蜥蜴	衣裳考証	甲斐荘楠音
1957	8	11	東映京都	水戸黄門	衣裳考証	甲斐荘楠音
1957	9	8	東映京都	黄金の伏魔殿	衣裳考証	甲斐荘楠音
1957	10	29	東映京都	富士に立つ影	衣裳考証	甲斐荘楠音
1957	12	28	東映京都	旗本退屈男 謎の蛇姫屋敷	衣裳考証	甲斐荘楠音
1958	1	3	東映京都	任侠東海道	衣裳考証	甲斐荘楠音
1958	2	12	東映京都	千両獅子		
1958	3	25	東映京都	葵秘帖	衣裳考証	甲斐荘楠音
1958	4	30	東映京都	大江戸七人衆	衣裳考証	甲斐荘楠音
1958	5	27	東映京都	浪人八景	衣裳考証	甲斐荘楠音
1958	8	12	東映京都	旗本退屈男	衣裳考証	甲斐荘楠音
1958	9	23	東映京都	喧嘩太平記	衣裳考証	甲斐荘楠音
1958	10	14	東映京都	濡れ燕 くない権八		
1958	11	11	東映京都	修羅八荒	衣裳考証	甲斐荘楠音
1959	1	9	東映京都	旗本退屈男 謎の南蛮太鼓	衣裳考証	甲斐荘楠音
1959	1	15	東映京都	忠臣蔵 桜花の巻 菊花の巻	衣裳考証	甲斐荘楠音
1959	2	11	東映京都	あばれ大名 東映京都	衣裳考証	甲斐荘楠音
1959	3	25	東映京都	あばれ街道 東映京都 ... 三河団十郎	衣裳考証	甲斐荘楠音

年	月	日	会社	作品名	担当表記	氏名表記
1959	5	5	東映京都	風流使者 天下無双の剣		
1959	6	28	東映京都	旗本退屈男 謎の大文字	衣裳考証	甲斐荘楠音
1959	8	9	東映京都	血闘水滸伝 怒濤の対決	衣裳考証	
1959	8	26	東映京都	榛名はやし 喧嘩鷹		
1959	10	11	東映京都	天下の伊賀越 暁の血戦	衣裳考証	甲斐荘楠音
1960	1	3	東映京都	任侠中仙道	衣裳考証	甲斐荘楠音
1960	1	9	東映京都	旗本退屈男 謎の幽霊島	衣裳考証	
1960	2	14	東映京都	あらくれ大名	衣裳考証	甲斐荘楠音
1960	3	22	東映京都	浪人市場 朝やけ天狗		
1960	5	3	東映京都	天保六花撰 地獄の花道		
1960	5	22	東映京都	大岡政談 魔像篇		
1960	6	29	東映京都	旗本退屈男 謎の暗殺隊	衣裳考証	甲斐荘楠音
1960	8	7	東映京都	水戸黄門	衣裳考証	
1960	8	28	東映京都	黒部谷の大剣客		
1960	11	15	東映京都	素浪人百万石		
1961	1	9	東映京都	鉄火大名		
1961	3	5	東映京都	旗本喧嘩鷹		
1961	3	28	東映京都	赤穂浪士	衣裳考証	甲斐荘楠音
1961	5	11	東映京都	八荒流騎隊		
1961	8	1	東映京都	旗本退屈男 謎の七色御殿	衣裳考証	
1961	9	13	東映京都	八百万石に挑む男		
1961	12	6	東映京都	権九郎旅日記		
1962	1	23	東映京都	旗本退屈男 謎の珊瑚屋敷	衣裳考証	
1962	1	31	東映京都	天下の御意見番	衣裳考証	甲斐荘楠音
1962	4	8	東映京都	きさらぎ無双剣		
1962	6	24	東映京都	男度胸のあやめ笠		
1962	9	1	東映京都	酔いどれ無双剣		
1962	10	27	東映京都	稲妻峠の決闘		
1963	1	3	東映京都	勢揃い東海道	衣裳考証	甲斐荘楠音
1963	1	9	東映京都	旗本退屈男 謎の龍神岬		
1963	2	17	東映京都	浪人街の顔役		
1963	5	12	東映京都	新選組血風録 近藤勇		
1963	8	27	東映京都	雲切獄門帖		
1964	1	25	東映京都	忍び大名		

(参考資料11 高田浩吉主演一覧表)

年	月	日	会社	作品名	担当表記	氏名表記
1953	1	22	松竹太秦	江戸いろは祭り	時代考証	甲斐庄楠音
1953	3	26	松竹太秦	疾風からす隊	時代考証	甲斐庄楠音
1953	4	15	松竹太秦	お役者小僧	時代考証	甲斐庄楠音
1953	5	19	新東宝	晴れ姿 伊豆の佐太郎		
1953	9	8	松竹太秦	天馬往来		
1953	11	23	松竹太秦	荒川の佐吉 遊侠夫婦笠		
1954	1	9	松竹太秦	お役者変化	衣裳考証	甲斐庄楠音
1954	1	21	松竹太秦	慶安水滸伝	時代考証	甲斐庄楠音
1954	4	7	松竹太秦	伝七捕物帖 人肌千両	時代考証	
1954	6	1	松竹太秦	素浪人日和	衣裳考証	甲斐庄楠音
1954	7	6	松竹太秦	伝七捕物帖 刺青女難	衣裳考証	甲斐庄楠音
1954	8	11	松竹太秦	びっくり五十三次		
1954	11	10	松竹太秦	喧嘩鴉		
1954	12	8	松竹太秦	伝七捕物帖 黄金弁天	衣裳考証	
1954	12	29	松竹太秦	七変化狸御殿		
1955	1	9	松竹太秦	八州侠客伝 白鷺三味線	衣裳考証	甲斐庄楠音
1955	1	15	新東宝	紋三郎の秀		
1955	2	22	松竹太秦	喧嘩奴	衣裳考証	甲斐庄楠音
1955	4	19	松竹太秦	伝七捕物帖 女郎蜘蛛	衣裳考証	甲斐庄楠音
1955	6	7	松竹太秦	八州侠客伝 源太あばれ笠	衣裳考証	甲斐庄楠音
1955	8	10	松竹太秦	お役者小僧 江戸千両職	衣裳考証	甲斐庄楠音
1955	11	1	新東宝	名月佐太郎笠		
1955	11	22	松竹太秦	応仁絵巻 吉野の盗族		
1955	12	28	松竹太秦	大江戸出世双六	衣裳考証	甲斐庄楠音
1956	1	8	松竹太秦	伝七捕物帖 花嫁小判	衣裳考証	甲斐庄楠音
1956	1	29	松竹大船	君のうたごえ		
1956	4	4	松竹太秦	青空剣法より 弁天夜叉		
1956	4	25	松竹太秦	流転	衣裳考証	甲斐庄楠音
1956	6	1	松竹太秦	伝七捕物帖 女狐駕籠	衣裳考証	甲斐庄楠音
1956	8	14	松竹太秦	花笠太鼓	衣裳考証	甲斐庄楠音
1956	9	19	松竹太秦	鶴八鶴次郎		
1956	9	19	松竹大船	スタジオ超特急		
1956	10	3	松竹大船	女優誕生		
1956	10	6	松竹太秦	京洛五人男	衣裳考証	甲斐庄楠音
1957	1	3	松竹太秦	歌う弥次喜多 黄金道中	衣裳考証	甲斐庄楠音
1957	1	15	松竹太秦	りんどう鴉	衣裳考証	甲斐庄楠音
1957	1	29	松竹太秦	伝七捕物帖 美女蝙蝠		
1957	4	16	松竹太秦	大江戸風雪絵巻 天の眼	衣裳考証	甲斐庄楠音
1957	5	7	松竹太秦	折鶴さん笠	衣裳考証	甲斐庄楠音
1957	7	1	松竹太秦	赤城の血煙 国定忠治	衣裳考証	甲斐庄楠音
1957	9	22	松竹太秦	伝七捕物帖 銀蛇呪文	衣裳考証	甲斐庄楠音
1957	11	12	松竹太秦	お富と切られ与三郎	衣裳考証	甲斐庄楠音
1958	1	3	松竹太秦	すっ飛び五十三次		
1958	1	9	松竹太秦	伝七捕物帖 鬪腰狂女	衣裳考証	甲斐庄楠音

年	月	日	会社	作品名	担当表記	氏名表記
1958	2	26	松竹太秦	勇み肌千両男	衣裳考証	甲斐荘楠音
1958	4	29	松竹太秦	清水の佐太郎	衣裳考証	甲斐荘楠音
1958	5	13	松竹太秦	天保水滸伝	衣裳考証	甲斐荘楠音
1958	8	10	松竹太秦	太閤記	衣裳考証	甲斐荘楠音
1958	9	30	松竹太秦	大東京誕生 大江戸の鐘 風雲篇 開花篇	衣裳考証	甲斐荘楠音
1958	11	23	松竹太秦	妻恋道中	衣裳考証	甲斐荘楠音
1958	12	28	松竹太秦	大暴れ東海道	衣裳考証	甲斐荘楠音
1959	2	10	松竹太秦	伝七捕物帖 女肌地獄	衣裳考証	甲斐荘楠音
1959	4	5	松竹太秦	修羅桜	衣裳考証	甲斐荘楠音
1959	6	14	松竹太秦	紀の国屋文左衛門	衣裳考証	甲斐荘楠音
1959	7	14	松竹太秦	大暴れ八百八町		
1959	8	2	松竹太秦	伝七捕物帖 幽霊飛脚	衣裳考証	甲斐荘楠音
1959	12	27	松竹太秦	晴れ姿勢揃い、 剣侠五人男	衣裳考証	甲斐荘楠音
1960	1	26	松竹太秦	抱寝の長脇差	衣裳考証	甲斐荘楠音
1960	6	12	東映京都	旅の長脇差 花笠椿		
1960	7	13	東映京都	まぼろし大名		
1960	7	31	東映京都	まぼろし大名 完結篇		
1960	8	7	東映京都	怪談五十三次		
1960	10	9	東映京都	旅の長脇差 伊豆の佐太郎		
1960	11	30	東映京都	緋ぼたん浪人		
1961	1	3	東映京都	お役者変化捕物帖 弁天屋敷		
1961	2	2	東映京都	朝霧街道		
1961	4	9	東映京都	鞍馬八天狗		
1961	5	10	東映京都	お役者変化捕物帖 血どくろ屋敷		
1961	6	6	東映京都	ちゃりんこ街道		
1961	7	1	東映京都	幽霊五十三次		
1961	9	13	東映京都	いかすじゃねえか三度笠		
1962	2	14	東映京都	八幡鳩九郎		
1962	5	23	東映京都	伝七捕物帖 影のない男		
1962	11	11	東映京都	地獄の影法師		
1963	3	24	東映京都	伝七捕物帖 女狐小判		
1963	8	27	東映京都	素浪人捕物帖 闇夜に消えた女		

(参考資料12 東映『旗本退屈男』シリーズ一覧表)

年	月	日	会社	作品名	監督	担当表記	氏名表記	カラー／モノクロ
1950	9	23	東横	旗本退屈男捕物控 七人の花嫁	松田定次			モノクロ
1950	10	7	東横	旗本退屈男捕物控 毒殺魔殿	松田定次			モノクロ
1951	9	7	東映	旗本退屈男 唐人街の鬼	中川信夫			モノクロ
1953	1	22	東映	旗本退屈男 八百八丁罷り通る	佐々木康			モノクロ
1954	1	3	東映	旗本退屈男 どくろ屋敷	松田定次			モノクロ
1954	1	3	東映	旗本退屈男 謎の百万両	佐々木康	時代考証	甲斐荘楠音	モノクロ
1954	12	27	東映	旗本退屈男 謎の怪人屋敷	渡辺邦男	時代考証	甲斐荘楠音	モノクロ
1955	8	14	東映	旗本退屈男 謎の伏魔殿	佐々木康	衣裳考証	甲斐荘楠音	モノクロ
1955	12	28	東映	旗本退屈男 謎の決闘状	佐々木康			モノクロ
1956	7	12	東映	旗本退屈男 謎の幽霊船	松田定次	衣裳考証	甲斐荘楠音	カラー
1957	1	15	東映	旗本退屈男 謎の紅蓮塔	松田定次	衣裳考証	甲斐荘楠音	モノクロ
1957	12	28	東映	旗本退屈男 謎の蛇姫屋敷	佐々木康	衣裳考証	甲斐荘楠音	カラー
1958	8	12	東映	旗本退屈男	松田定次	衣裳考証	甲斐荘楠音	カラー
1959	1	9	東映	旗本退屈男 謎の南蛮太鼓	佐々木康	衣裳考証	甲斐荘楠音	カラー
1959	6	28	東映	旗本退屈男 謎の大文字	佐々木康	衣裳考証	甲斐荘楠音	カラー
1960	1	9	東映	旗本退屈男 謎の幽霊島	佐々木康	衣裳考証		カラー
1960	6	29	東映	旗本退屈男 謎の暗殺隊	松田定次	衣裳考証	甲斐荘楠音	カラー
1961	8	1	東映	旗本退屈男 謎の七色御殿	佐々木康	衣裳考証		カラー
1962	1	23	東映	旗本退屈男 謎の珊瑚屋敷	中川信夫	衣裳考証		カラー
1963	1	9	東映	旗本退屈男 謎の竜神岬	佐々木康			カラー

(参考資料13 高田浩吉『伝七捕物帖』シリーズ一覧表)

年	月	日	会社	作品名	監督	担当表記	氏名表記	カラー／モノクロ
1954	4	7	松竹	伝七捕物帖 人肌千両	松田定次	時代考証		モノクロ
1954	7	6	松竹	伝七捕物帖 刺青女難	岩間鶴夫	衣裳考証	甲斐荘楠音	モノクロ
1954	12	8	松竹	伝七捕物帖 黄金弁天	福田晴一	衣裳考証		モノクロ
1955	4	19	松竹	伝七捕物帖 女郎蜘蛛	福田晴一	衣裳考証	甲斐荘楠音	モノクロ
1956	1	8	松竹	伝七捕物帖 花嫁小判	福田晴一	衣裳考証		モノクロ
1956	6	1	松竹	伝七捕物帖 女狐駕籠	福田晴一	衣裳考証	甲斐荘楠音	モノクロ
1957	1	29	松竹	伝七捕物帖 美女蝙蝠	福田晴一			カラー
1957	9	22	松竹	伝七捕物帖 銀蛇呪文	福田晴一	衣裳考証	甲斐荘楠音	カラー
1958	1	9	松竹	伝七捕物帖 髑髏狂女	福田晴一	衣裳考証	甲斐荘楠音	カラー
1959	2	10	松竹	伝七捕物帖 女肌地獄	酒井欣也	衣裳考証	甲斐荘楠音	カラー
1959	8	2	松竹	伝七捕物帖 幽霊飛脚	酒井欣也	衣裳考証	甲斐荘楠音	カラー
1962	5	23	東映	伝七捕物帖 影のない男	深田金之助			モノクロ
1963	3	24	東映	伝七捕物帖 女狐小判	大西秀明			モノクロ